

令和4年度

教 育 計 画  
(シラバス)

滋賀県県立看護専門学校

2年・3年

# 目 次

## 各分野の教育目的と教育内容

1	基 礎 分 野	1
2	専 門 基 礎 分 野	13
3	専 門 分 野 I	34
4	専 門 分 野 II	49
5	統 合 分 野	84

# 基 礎 分 野

1) 科学的思考の基盤

授業科目	国語表現法	担当教員	単位数	1	時間数	15
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		—				
学習目標	<p>1. 語彙の正確な意味や使い方を身につけ、日本語の構造や言葉の役割を知ることで国語力をより確実なものとする。</p> <p>2. 文章の基本を学び論文の書き方の基礎を身につける。</p>					
回数	学習内容					
4 H	1. 国語表現法とは					
	2. 文章の構成					
	1) 効果的な構成方法					
	2) 語彙の正確な使い方					
	「事実」と「意見」「感想」の違い					
6 H	3. 文章を書く目的と心構え					
	4. 敬語の目的と方法					
	1) 敬語の種類と語彙					
	2) 敬語の用法					
4 H	5. 文章による表現力					
	1) 文章・作文の基本					
	2) 原稿用紙の使い方					
	6. 小論文の書き方 (演習)					
	1) 論文とは何か					
	2) 論文を書く際の注意					
	3) 資料の読解					
	4) 注、引用、文献表の付け方					
	5) 論文作成					
試験 1 時間						
成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他						

1) 科学的思考の基盤

授業科目	生活行動科学	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	人間が活動する際、身体への負荷を軽減させ目的行動を合理的に行うことができるように、看護行為の安全性や安楽の視点、科学的で効率のよい合理的な姿勢で動作を行うための基礎知識を理解する。						
回数	学習内容						
12H	1. 生活行動科学とは						
	2. 力学の話 (演習)						
	1) 力の「効果的な力の合わせ方」						
	2) てこの原理						
	3) 力のモーメント						
	4) 摩擦力・摩擦の法則						
	5) 重心について						
	6) 人間の動作と物理学との関係						
	・ボディメカニクス						
	・姿勢と動作						
	・体位変換						
10H	3. 圧力の原理と実際 (演習)						
	1) 気圧とは						
	2) 圧力と気体						
	・ボイル・シャルルの法則						
	3) 流体の圧力						
	・血圧について						
	4) 吸引の原理						
	・サイフォンの原理						
7H	4. 熱現象の原理 (演習)						
	1) 温度変化と比熱						
	2) 熱エネルギー						
	3) 熱計算						
	4) 熱の移動						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		完全版 ベッドサイドを科学する —看護に生かす物理学—					

1) 科学的思考の基盤

授業科目	論理学	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		—					
学習目標	論理的思考の必要性とその基本的知識を学び、すじみちを立てて、物事を考える姿勢を養う。						
回数	学習内容						
10H	1. 論理学とは 1) 論理的に考えるとは 2) クリティカルシンキングとは  2. クリティカル思考 1) 「事実」と「意見」の区別 2) 「理由・根拠」と「主張・結論」の区別 3) 推論の妥当性						
10H	3. 根拠としての事実 1) 事実検討 2) スキーマについて 3) 偏った事実						
9H	4. 要約と批判 1) 議論の分析 (演習) 2) 虚偽論の分類						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		クリティカル進化論 (北大路書房)					

1) 科学的思考の基盤

授業科目	情報科学	担当教員	単位数	2	時間数	45
			受講年次・時期		1年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		—				
学習目標	情報科学の基礎理論や、その技術側面であるコンピュータに関する知識を深め、それを看護の考え方や看護情報の処理診断に役立てる。					
回数	学習内容					
6 H	1. コンピュータと情報					
	1) 動作原理と計算機モデル					
	2) 情報と通信の理論					
	3) AI					
4 H	2. ハードウェアとソフトウェア					
	1) 各種データの特徴とファイル					
	2) OSとアプリケーション					
6 H	3. インターネット					
	1) 成り立ち、プロトコル					
	2) マルウェアとセキュリティ					
	3) ネットリテラシー					
	4) 電子メール					
8 H	4. 表計算ソフトの活用 (演習)					
	1) セルと式					
	2) 関数					
	3) グラフ					
6 H	5. 統計学 (演習)					
	1) 母集団と標本、特徴を表す値					
	2) 標準化、確率密度関数					
	3) 相関					
6 H	6. ワードプロセッサの活用 (演習)					
	1) 文書についての考え方					
	2) 複合文書の作成					
6 H	7. プレゼンテーションソフトの活用 (演習)					
	1) プレゼンテーションの計画					
	2) スライドのデザイン					
2 H	8. 医療と情報					
試験 1 時間						
成績評価方法		課題提出、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	教育学	担当教員	単位数	1	時間数	30	
			受講年次・時期		1年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	<p>教育の意義や基本構造を中心に教育の基本的な事項を理解する。現実に行われている教育活動に目を向け、教育の現状と今後あるべき方法を模索する。自分の教育観と他者の教育観を理解する力をつけ、日常の学びの場面や対人関係場面で活かすことを目指す。</p>						
回数	学習内容						
4 H	<p>1. 教育とは何か</p> <p>1) 人間形成としての教育</p> <p>2) 素質と環境</p> <p>3) 学習・教育の必要性と可能性</p> <p>4) 意図的教育と無意図的教育</p>			6 H	<p>5. 教育の歴史的展開</p> <p>1) 日本の教育的思想</p> <p>2) 日本の近代教育思想</p>		
8 H	<p>2. 教育の本質</p> <p>1) 成長・発達の援助</p> <p>2) 文化の伝達</p> <p>3) 良心の覚醒</p>			4 H	<p>6. 学校教育の内容</p> <p>7. 教育の方法</p> <p>1) 構造的展開</p> <p>2) 自発性・保護、抑制、助成</p> <p>3) 直観の原理</p> <p>4) 表現の原理</p>		
	<p>3. 教育の目的</p> <p>1) 一般的性格</p> <p>2) わが国の教育目的</p> <p>3) これからの学校教育の目的・目標</p>			7 H	<p>8. 生涯学習論</p> <p>9. 社会教育の課題</p> <p>10. 日本の教育制度</p>		
試験1時間	<p>4. 欧米の教育思想の展開</p> <p>1) コメニウス</p> <p>2) ロック</p> <p>3) ルソー</p> <p>4) ペスタロッチ</p> <p>5) フレーベル</p> <p>6) コンドルセ</p> <p>7) オーエン</p> <p>8) デューイ</p>						
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他							



2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	社会学	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		—					
学習目標	社会的行為、社会集団、地位と役割、社会変動、文化などの社会学の基本概念を学び、社会学の視点で現実の社会や社会問題を理解する。						
回数	学習内容						
6H	1. 社会 1) 社会の意味 2) 社会の成り立ち (個人・集団・社会) 3) 近代社会の特徴						
10H	2. 現代の生活と社会 1) 社会と常識 2) 社会学の視点と方法 3) 国際社会のとらえかたの変化 4) 南北問題						
13H	3. 人類の課題 1) 環境変動・問題 4. 地域社会 5. 集団組織 6. 家族						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	哲 学	担当教員		単位数	1	時間数	30	
				受講年次・時期	1年次・後期			
授業形式	講 義	実務経験		必修・選択別	必修			
		—						
学習目標	<p>思考の倫理、存在そのもの、生と死、環境世界における人間存在のありかた、真善美正などの価値、科学・医療・看護を含む人間の営為の意味や目的を学び、物事の根本や原理を深く考察することの重要性を理解する。また、看護に必要な倫理観、生命観を養う基礎とする。</p>							
回 数	学 習 内 容							
8 H	<p>1. 哲学とは</p> <p>1) 生きた世界観</p> <p>2) 世界の動き</p> <p>3) 世界の成り立ち</p> <p>2. 人間とは</p> <p>1) 何のために生きるのか</p> <p>2) 倫理と哲学</p> <p>3. 生命と理想</p> <p>1) 相対的善と絶対的善</p> <p>2) 感覚と理性</p> <p>3) 真理と芸術</p> <p>4. 人間の価値観</p> <p>1) 正義と幸福</p> <p>2) 理想と現実</p> <p>3) 友愛と好意</p> <p>4) 倫理徳</p> <p>5) 正義とは何か</p>	6 H	<p>7. 科学的世界観</p> <p>1) 科学的真理と自然哲学</p> <p>8. 合理主義</p> <p>1) 理性と知覚</p> <p>2) 合理主義</p> <p>9. 経験主義哲学</p> <p>1) 知識の源泉とは</p> <p>2) 厳格主義</p>	7 H	<p>10. 合理論と経験論</p> <p>11. 絶対者の哲学</p> <p>1) アリストテレスとカント</p> <p>2) 人倫性と道徳性</p> <p>12. 哲学と芸術</p> <p>1) 美と芸術</p> <p>2) 真理の芸術性</p> <p>3) 芸術と道徳</p>	8 H	<p>5. 内面重視の価値観</p> <p>6. 哲学と宗教</p> <p>1) プラトン主義とキリスト教</p> <p>2) 理性と進行の統合</p> <p>3) 近代への展望</p>	試験1時間
成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)							
参考文献他	美術で綴る西洋思想 ーレオナルド・ダ・ヴィンチからマックスウエーバーまでー							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	心理学	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義	実務経験 —		必修・選択別		必修	
学習目標	人間の心理・行動の基礎にある原理を学び自己及び対象を多角的に理解する能力を養う。						
回数	学習内容						
6 H	1. 心理学とは 2. 知覚 1) 知覚の成立条件 2) 知覚の異常			6 H	5. ストレスとは 1) ストレスのメカニズム 2) 喪失体験からの回復プロセス		
6 H	3. 記憶 1) 記憶とは 2) 忘却の心理 3) 記憶の変化と工夫 4) 記憶障害			6 H	7. 精神分析的心理療法 8. 認知行動療法		
	4. 思考・想像・言語 1) 思考作用 2) 思考力の発達 3) 想像性 4) 言語の習得と機能			5 H	9. 集団心理 10. カウンセリング 1) カウンセリングとは 2) 面接技法		
試験 1 時間							
成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業評価の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	基礎英語	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		—					
学習目標	<p>1. 既習の知識を活性化させ、コミュニケーションの場で即座に使用できる知識として定着させる。</p> <p>2. 英語の読解力を養うことを中心としながら、聞く力・話す力・書く力を含めた英語の統合力を身につける。</p>						
回数	学習内容						
10H	1. 基礎英語 1) 読解 2) ヒアリング						
10H	2. 医学英単語						
9H	3. 看護文献について						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他							

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	英会話 中国語 ポルトガル語	担当教員	サミュエル・ソレンソン	単位数	1	時間数	30
			林 虹				
			塚田 智恵	受講年次・時期	2年次・前期		
授業形式	講 義 ・ 演 習	実務経験		必修・選択別	選択		
		—					
学習目標	<p>〈中国語〉 社会体制の異なる隣国の文化や社会事情を知り、日本語と比較しながら、中国語の基本的な文法を学び、初歩の読本を通して初歩的な読解力や簡単な会話ができる能力を養い、自国・自国語を見つめ直す機会にする。</p> <p>〈ポルトガル語〉 ポルトガル語の基本文法を学び、初級レベルの読本の読解力とポルトガル語での簡単な会話ができる能力を養うとともに、ポルトガル語文化圏の諸事情を理解する。</p> <p>〈英会話〉 英語に関する文献およびその他の資料を読むために必要な英語能力を用いて、時代の要求する英語の受信・発信力、柔軟な理解力、多元的なものの見方など、異文化間でのコミュニケーションに必要な能力を獲得する。</p>						
回数	学 習 内 容						
4 H	1. 中国語圏、ポルトガル語文化圏、英語文化圏の事情を概観する。						
4 H	2. 基礎文法						
4 H	3. 日常生活で用いられる標準的な慣用表現						
4 H	4. 基礎的な文型で適切な文章表現						
4 H	5. 英語、中国語、ポルトガル語の聴講						
4 H	6. 構文の理解						
5 H	7. 日常あいさつ (会話)						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	英 : 中 : ジョイフル中国語 ポ :						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	身体表現	担当教員	----- -----	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・後期		
授業形式	講義・実技	実務経験 —		必修・選択別	必修		
学習目標	<p>1. 健康づくりの一環として、運動を行うことの楽しさやリラクゼーション及びその効果について理解する。また、身体活動を取り入れた表現方法も身につける。</p> <p>2. 言語表現等が困難な対象との日常生活上のコミュニケーションの支援と交流活動を促進するため、手話の知識と実際を理解する。</p>						
回数	学 習 内 容						
2H	<b>I. エクササイズ</b> 1. ガイダンス ・健康と体力 ・エアロビクス 基本の動き（ベース） (実技)						
10H	2. 健康づくりとしての運動 ・エアロビクス（練習）、ストレッチ (実技) ・ダンス 基本の動き（ベース） (実技) ・ダンス（練習）、ヨガ (実技) 3. 表現・発表（チームごと） (実技試験)						
2H	<b>II. 手話</b> 1. 聴覚障害、聴覚障害者の理解						
2H	2. 身振りと表情 (実技)						
2H	3. 手話の基礎知識						
10H	4. 基本的手話の実際 (実技) ・挨拶 ・名前 ・家族 ・数字 ・仕事、趣味 ・病院での手話単語、受付での会話等 (ロールプレイ)						
試験 2 時間							
成績評価方法	実技試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	はじめて出会う手話 手話で必見！医療のすべて（外来編）						

2) 人間と生活、社会の理解

授業科目	人間関係論	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別		必修	
		—					
学習目標	自己の対人関係のあり方に気づき、人間関係のもち方・つくり方・継続の仕方について学び、人間関係はいかにあるべきかを理解する。						
回数	学習内容						
12H	1. 人間観						
	2. 自己を知る (自己開示、ジョハリの窓、シェアリング等)						
	3. 対人認知 (構成的グループエンカウンター)						
8H	4. 現代社会の人間関係						
	5. 人間関係のひずみ						
8H	6. 人間関係の改善						
	7. 人間関係の実際 (カウンセリングを含む) (演習)						
	1) エゴグラム、交流分析						
	2) 自己意識・自尊感情						
	3) とらわれ・かまへの心理						
	4) アサーション権						
1H	8. 看護における人間関係						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他							

# 專 門 基 礎 分 野



1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学 I (人体の構造)	担当教員	-----	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	1年次・前期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						
回数	学 習 内 容						
6 H	1. 人体の素材としての細胞・組織 1) 細胞の構造 2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 3) 細胞膜の構造と機能 4) 細胞の増殖と染色体 5) 分化した細胞がつくる組織	4 H	4. 自律神経系による調整 1) 自律神経系の機能 2) 自律神経系の構造 3) 自律神経の神経伝達物質と受容体	2 H	5. 皮膚の構造と機能		
4 H	2. 構造と機能からみた人体 1) 構造からみた人体 2) 機能からみた人体 3) 体液とホメオスタシス ・体液の区分と水分 ・電解質と非電解質		6. 生体の防御機構 1) 非特異的防御機構 2) 特異的防御機構(免疫系) 3) 生体防御の関連臓器		7. 代謝と運動		
4 H	3. 血液 1) 血液の組成と機能 2) 赤血球 3) 白血球 4) 血小板 5) 血漿タンパク質 6) 血液型	2 H	8. 体温とその調節 1) 体温 2) 体温の調節	7 H	9. 男性の生殖器系 10. 女性の生殖器系 11. 受精と胎児の発生 12. 成長と老化		
試験 1 時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) 系看 準拠 解剖生理学ワークブック (医学書院)						

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸・循環・体温、 体液と電解質)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。					
回数	学 習 内 容					
9H	1. 呼吸器の構造 1) 呼吸器の構成 2) 上気道 3) 下気道と肺 4) 胸膜・縦隔 2. 呼吸 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸器と呼吸運動 3) 呼吸気量 4) ガス交換とガスの運搬 5) 肺の循環と血流 6) 呼吸運動の調節					
14H	3. 循環器系の構成 4. 心臓の構造 5. 心臓の拍出機能 1) 刺激伝道系 2) 心臓の収縮 6. 末梢循環器系の構造 1) 血管の構造 2) 肺循環の血管 3) 全身の動脈 4) 全身の静脈 7. リンパとリンパ管					
6H	解剖見学 (滋賀医科大学)					
試験 1 時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)				

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅲ (消化・排泄・内分泌・腎泌尿)	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	人体の発生・構造について理解し、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。						
回数	学習内容						
15H	1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 1) 胃の構造と機能 2) 小腸の構造と機能 3) 大腸の構造と機能 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 1) 膵臓の構造と機能 2) 肝臓の構造と機能 3) 胆嚢の構造と機能 4. 腹膜						
14H	5. 内分泌系による調節 1) 内分泌とホルモン 6. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1) 視床下部 - 下垂体系 2) 甲状腺と副甲状腺 3) 膵臓 4) 副腎 5) 性腺 7. ホルモン分泌の調整 8. 腎臓の構造と機能 9. 糸球体の構造と機能 10. 尿細管の構造と機能 11. 傍糸球体装置 12. 排尿路 1) 排尿路の構造 2) 尿の貯蔵と排尿 13. 体液の調節 1) 水の出納 2) 脱水 3) 電解質の異常 4) 酸塩基平衡						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)					

1) 人体の構造と機能

授業科目	解剖生理学Ⅳ (脳神経・運動・感覚)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	人体の発生・構造について学び、形態と機能を系統的に理解する。また、それらが人の生命、生活にどのように関わるのかを理解し、看護実践の土台とする。					
回数	学 習 内 容					
17H	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 神経細胞と神経組織</li> </ul> </li> <li>2. 脊髄と脳 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 脊髄の構造と機能</li> <li>2) 脳の構造と機能</li> </ul> </li> <li>3. 脊髄神経と脳神経 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 脊髄神経の構造と機能</li> <li>2) 脳神経の構造と機能</li> </ul> </li> <li>4. 脳の高次機能</li> <li>5. 運動機能と下行伝導路 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 運動ニューロン</li> <li>2) 下行伝導路</li> </ul> </li> <li>6. 感覚機能と上行伝導路 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 体性感覚</li> <li>2) 上行伝導路</li> </ul> </li> <li>7. 眼の構造と視覚</li> <li>8. 耳の構造と聴覚・平衡覚</li> <li>9. 味覚と嗅覚</li> </ul>					
12H	<ul style="list-style-type: none"> <li>10. 骨格</li> <li>11. 骨の連結 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 関節</li> </ul> </li> <li>12. 骨格筋 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 骨格筋の構造</li> </ul> </li> <li>13. 体幹の骨格と筋</li> <li>14. 上肢の骨格と筋</li> <li>15. 下肢の骨格と筋</li> <li>16. 頭頸部の骨格と筋</li> <li>17. 筋の収縮</li> </ul>					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)				

1) 人体の構造と機能

授業科目	栄養と代謝	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		—					
学習目標	人体を構成している物質（糖質・脂質・タンパク質・核酸）の物理化学的性質や機能を学び、それぞれの消化・吸収・変化からエネルギー代謝への関わりを理解する。						
回数	学習内容						
4H	1. 生化学と栄養 1) 生化学とは何か ・生命活動、ATP 2) 栄養素とは何か						
12H	2. 各栄養素の代謝 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質・アミノ酸 4) ビタミン						
4H	3. エネルギー代謝 1) エネルギーの供給 2) エネルギー消費						
4H	4. 食事摂取基準 1) 栄養所要量から食事基準へ 2) 各栄養素の食事摂取基準						
5H	5. 核酸と遺伝子情報 1) 核酸の構造と役割 2) ヌクレオチドの合成と分解 3) 遺伝子情報とは 4) 複製と転写						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門基礎分野 生化学 (医学書院) 新食品・栄養学シリーズ 基礎栄養学 [西川・灘本編] (化学同人)					

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	病理学	担当教員	単位数	1	時間数	15
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	疾病を引き起こすさまざまな病変の基本的メカニズムについて理解する。					
回数	学習内容					
14H	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病理学とは</li> <li>2. 病因論</li> <li>3. 細胞・組織の障害と修復 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞の変性</li> <li>2) 壊死</li> <li>3) 萎縮</li> <li>4) 肥大と過形成</li> <li>5) 化生</li> </ol> </li> <li>4. 循環障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環血液量の異常</li> <li>2) 閉塞性の循環障害</li> <li>3) 側副循環</li> <li>4) リンパの循環障害</li> </ol> </li> <li>5. 炎症 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 炎症の各型</li> </ol> </li> <li>6. 感染症 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染と防衛機構</li> </ol> </li> <li>7. 代謝障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 物質沈着</li> <li>2) 脂質代謝異常</li> <li>3) タンパク質代謝異常</li> <li>4) 糖質代謝異常</li> </ol> </li> <li>8. 老化と死</li> <li>9. 先天異常</li> <li>10. 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腫瘍の定義と分類</li> <li>2) 腫瘍の発生病理</li> <li>3) 転移と進行度</li> <li>4) 腫瘍の診断と治療</li> </ol> </li> </ol>					
試験1時間						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他	系看 専門基礎分野 病理学 (医学書院)					

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論 I (呼吸・循環)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。					
回数	学習内容					
8 H	循環器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁膜症 6) 心筋疾患 7) 先天性心疾患 8) 動脈系疾患	8 H	8 H	呼吸器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 上気道・気管支の疾患 (1) 気管支炎 (2) 気管支喘息 2) 肺の疾患 (1) 肺炎 (細菌性、マイコプラズマ、間質性) (2) 肺結核 (3) 肺気腫 (4) 呼吸不全 (5) 肺腫瘍 3) 胸膜の疾患 (1) 気胸	2 H	2 H
2 H	2. 主な検査 1) 心電図 2) 血液検査 3) 心臓カテーテル法	2 H	2 H	2. 主な検査 1) 画像診断 2) 内視鏡検査 3) 呼吸機能検査 4) 血液検査 5) 痰検査 6) 生検	5 H	5 H
4 H	3. 主な治療 1) P T C A 2) 薬物療法 3) 安静療法 4) 食事療法 5) 手術療法 (1) ペースメーカー植込術 (2) バイパス術 (3) 弁置換術 (4) 人工血管置換術	5 H	5 H	3. 主な治療 1) 酸素療法 2) 吸入療法 3) 呼吸理学療法 4) 薬物療法 5) 化学療法 6) 放射線療法 7) 胸腔ドレナージ 8) 手術療法 (1) 開胸術と胸腔鏡手術 (2) 肺切除術	試験1時間	
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門II 成人看護学 (3) 循環器 (医学書院) 系看 専門II 成人看護学 (2) 呼吸器 (医学書院)				

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化・内分泌)	担当教員	谷口 正展	単位数	1	時間数	30
			森田 善方	受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
回数	学習内容						
8 H	消化器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 食道の疾患 (1) 食道癌 2) 胃・十二指腸の疾患 (1) 胃・十二指腸潰瘍 (2) 胃癌 3) 腸および腹膜の疾患 (1) 腸炎 (2) イレウス(腸閉塞症) (3) 腹膜炎 (4) 腸管ポリープ (5) 結腸癌・直腸癌 4) 肝臓・胆嚢の疾患 (1) 肝硬変症 (2) 肝癌 (3) 胆石症 (4) 胆嚢癌・胆管癌 5) 膵臓の疾患 (1) 膵炎 (2) 膵癌	8 H	内分泌・代謝系 1. 代表的疾患の病態生理 内分泌疾患 1) 副腎皮質疾患 (1) クッシング症候群 2) 甲状腺疾患 (1) 甲状腺機能亢進症 (2) 甲状腺機能低下症 代謝疾患 1) 糖尿病 2) 痛風 3) 高脂血症 4) メタボリックシンドローム	2 H	2. 主な検査 1) 血液検査(ホルモン定量) 2) 尿検査 3) 負荷試験 4) 画像診断	5 H	3. 主な治療 1) 食事療法 2) 運動療法 3) 薬物療法
2 H	2. 主な検査 1) 肝機能検査 2) 放射線診断or画像診断 3) 内視鏡検査 4) 腹部超音波検査 5) 肝生検						
4 H	3. 主な治療 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 安静療法 4) 内視鏡的治療 5) 塞栓療法 6) 手術療法 (1) 開腹術と腹腔鏡下手術 (2) 胃切除術 (3) 結腸切除術 (4) 直腸切除・人工肛門造設術						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学(5) 消化器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学(6) 内分泌・代謝 (医学書院)					



2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅲ (脳神経・運動)	担当教員	千原 英夫	単位数	1	時間数	30				
			青山 朋樹	受講年次・時期		2年次・前期					
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修						
		有									
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。										
回数	学習内容										
6 H	脳神経系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 脳血管障害 (1) 脳梗塞 (2) 脳内出血 (3) クモ膜下出血 2) 変性疾患 (1) パーキンソン病 3) 神経・筋疾患 (1) 筋萎縮性側索硬化症 4) 感染症 (1) 髄膜炎 5) 脳腫瘍 6) 頭部外傷 7) てんかん ※精神看護学援助論 I 8) 認知症 ※精神看護学援助論 I	6 H	運動器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 骨折 2) 先天性疾患 3) 脱臼 4) 炎症性疾患 (1) 骨髄炎 (2) 変形性膝関節炎 (3) 慢性関節リウマチ 5) 骨腫瘍 6) 脊椎神経疾患 (1) 脊髄損傷 (2) 脊髄腫瘍 (3) 腰椎椎間板ヘルニア 7) 代謝性疾患 (1) 骨粗鬆症	4 H	2. 主な検査 1) 血管造影 2) CT 3) MRI 4) 腰椎穿刺 5) 各種反射 6) 筋電図 7) 脳波	4 H	2. 主な検査 1) 画像検査 (X線、CT、MRI、超音波検査) 2) 関節造影、脊髄造影検査 3) 骨密度検査 4) 関節鏡 5) 関節液検査	4 H	3. 主な治療 1) 保存療法 (1) ギプス包帯法 (2) 副子 (3) 牽引 (4) 関節穿刺 2) 理学療法 3) 手術療法 (1) 開頭術 ①クリッピング ②腫瘍摘出術 (2) 穿頭術 ①血腫除去術 (3) シヤント	5 H	3. 主な治療 1) 保存療法 (1) ギプス包帯法 (2) 副子 (3) 牽引 (4) 関節穿刺 2) 理学療法 3) 手術療法 4) 義肢と装具
試験1時間											
成績評価方法			筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)								
参考文献他			系看 専門Ⅱ 成人看護学 (7) 脳神経 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (10) 運動器 (医学書院)								

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論Ⅳ (血液・造血・アレルギー・膠原病・感染症)	担当教員	内海 貴彦 梅原 久範 大野 暢宏	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
回数	学習内容						
6 H	血液・造血器系 1. 代表的疾患の病態生理 1) 赤血球系の疾患 (1) 貧血 2) 白血球系の疾患 (1) 白血病 3) リンパ系疾患 (1) 悪性リンパ腫 (2) HIV感染症とエイズ 4) 異常タンパク血症 (1) 多発性骨髄腫 5) 出血性疾患 (1) 血友病 (2) 播種性血管内凝固症候群	2 H	2. 主な検査 1) 血液検査 2) 免疫学的検査 3) 画像検査	6 H	3. 主な治療 1) 薬物療法 (1) ステロイド・非ステロイド薬 (2) 抗アレルギー薬 (3) 免疫抑制剤 (4) 抗リウマチ薬 2) 免疫吸着療法・血漿交換療法	6 H	1. 感染症とは 1) 感染症とは 2) 感染が成立する条件 3) 感染症の病態生理・症状 2. 感染症の診断 1) 感染臓器の決定 2) 病原微生物の決定 3) 主な検査 3. 感染症の治療 1) 抗菌薬 2) その他
		2 H	2. 主な検査 1) 末梢血検査 2) 骨髄穿刺・生検 3) 出血傾向の検査 4) リンパ節生検				
4 H	3. 主な治療 1) 輸血療法 2) 化学療法 3) 薬物療法 4) 放射線療法 5) 移植療法						
7 H	アレルギー・膠原病 1. 代表的疾患の病態生理 1) アトピー性皮膚炎 2) 薬物のアレルギー 3) アナフィラキシー 4) 関節リウマチ 5) 全身性エリテマトーデス 6) 全身性硬化症 7) 皮膚筋炎 8) 膠原病類縁疾患						
試験 1 時間	* 下記感染症については、各疾病治療論に含まれる 4. 疾患の理解 ・ 上気道感染 ・ 下気道感染 ・ 心血管系感染症 ・ 菌血症・肺血症 ・ 消化器感染症 ・ 肝胆道系感染症 ・ 尿路感染症・性感染症 ・ 皮膚軟部組織感染症 ・ 真菌感染症 ・ 寄生虫感染症 ・ HIV感染症、日和見感染 ・ 多剤耐性菌感染症						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (4) 血液・造血器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (11) アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)					

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	疾病治療論 V (感覚、腎泌尿、生殖)	担当教員	中村 貴士 近藤 定彦	単位数	1	時間数	30
			菊岡 弘 納屋 佳男				
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		有					
学習目標	系統別疾患の病態、検査、治療について理解する。						
回数	学習内容						
3 H	感覚器系 眼疾患	2 H	歯・口腔の疾患	5 H	女性生殖器		
	1. 代表的疾患の病態生理		1. 代表的疾患と病態生理				
	1) 屈折の異常 2) 白内障・緑内障・網膜剥離 3) 眼底出血 4) 結膜炎 2. 主な検査 1) 視力・屈折・眼圧検査 2) 眼底写真撮影 3. 主な治療 1) 点眼法、洗眼法 2) 手術療法		1) 外陰の疾患 2) 膣の疾患 3) 子宮の疾患 4) 卵管の疾患 5) 卵巣の疾患 6) 月経異常、機能性子宮出血 7) 更年期障害 8) 乳房の疾患 9) 感染症				
3 H	耳、鼻、咽喉頭の疾患	6 H	腎泌尿器系	2 H	2. 主な診察・検査		
	1. 代表的疾患の病態生理		1. 代表的疾患の病態生理		1) 診察 (問診、外診、内診、膣鏡診、直腸診)		
	1) 中耳炎 2) 難聴 3) メニエール病 4) 副鼻腔炎アレルギー性鼻炎 5) 上顎癌・喉頭癌 2. 主な検査 1) 聴力検査 2) 平衡機能検査 3) 副鼻腔検査 4) 耳管通気検査 3. 主な治療 1) 点耳および点鼻法 2) 噴霧・塗布・吸入法 3) 手術療法		1) 腎不全 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) 尿路感染症 5) 尿路結石症 6) 腎腫瘍 7) 膀胱腫瘍 8) 前立腺肥大 9) 前立腺癌 2. 主な検査 1) 尿検査 2) 腎機能検査 3) X線撮影 4) 超音波検査 5) 核医学的診断法 6) CT、MRI 7) 経尿道的操作および内視鏡検査 8) 尿路水力学的検査 9) 生検 3. 主な治療 1) 食事療法 2) 薬物療法 3) 化学療法 4) ホルモン療法 5) 安静療法 6) 透析療法 (1) 血液透析 (2) 腹膜透析 7) 手術療法 (1) 経尿道的内視鏡手術 (2) 碎石術 (3) 尿路変更術 8) 腎移植	2 H	3. 主な治療 1) 膣および子宮膣内洗浄 2) 放射線療法 3) ホルモン療法 4) 化学療法 5) 手術療法 (1) 子宮切除術 (AT VT ET) (2) 乳房切除術		
2 H	皮膚疾患	2 H					
	1. 代表的疾患の病態生理						
	1) 湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 2) 皮膚感染症 (一般細菌、真菌、ウイルス) 3) 悪性腫瘍 4) 熱傷・凍傷 2. 主な検査 1) パッチテスト・皮内反応 2) 皮膚組織生検 3. 主な治療 1) 外用療法 2) 光線療法 3) レーザー照射						
試験 1時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目評価要領、終了時試験実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (12) 皮膚、(13) 眼、(14) 耳鼻咽喉科、(15) 歯・口腔 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (8) 腎・泌尿器、(9) 女性生殖器 (医学書院)					

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	薬理学	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理などについて理解する。					
回数	学習内容					
2H 3H  24H  試験1時間	<p>1. 薬理学の基礎知識</p> <p>1) 薬理学とは</p> <p>2) 薬理作用</p> <p>3) 薬物動態</p> <p>4) 薬物中毒</p> <p>5) 薬物管理</p> <p>6) チーム医療としての薬剤師の役割</p> <p>2. 抗感染症薬</p> <p>3. 抗がん薬</p> <p>4. 免疫治療薬</p> <p>5. 抗アレルギー薬・抗炎症薬</p> <p>6. 末梢神経系作用薬</p> <p>7. 中枢神経系作用薬</p> <p>8. 心臓血管系作用薬</p> <p>9. 呼吸器系作用薬</p> <p>10. 消化器系作用薬</p> <p>11. 腎泌尿器・生殖器系作用薬</p> <p>12. 皮膚作用薬</p> <p>13. 物質代謝作用薬</p> <p>14. 漢方薬</p> <p>15. 消毒薬</p>					
成績評価方法			筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)			
参考文献他			系看 専門基礎分野 薬理学 (医学書院)			

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	微生物学	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	感染症や伝染病の要因として、重要な位置を占める病原微生物の分類や特徴、消毒法、検査法に加え、感染症の変貌についての理解する。					
回数	学習内容					
4 H	1. 微生物学とは					
	1) 微生物の位置づけ					
	2) 微生物と人間					
	3) 微生物の歴史的変遷					
8 H	2. 細菌の性質					
	3. 真菌の性質					
	4. 原虫の性質					
	5. ウイルスの性質					
4 H	6. 感染と感染症					
	1) 感染のメカニズム					
	2) 感染防御機構					
	3) 感染経路					
4 H	7. 感染症の予防					
	1) 滅菌と消毒					
	2) ワクチンと予防接種					
4 H	8. 感染症の治療					
5 H	9. 病原微生物					
	1) 病原細菌と病原真菌					
	2) ウイルス感染症					
試験 1 時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門基礎分野 微生物学 (医学書院)				

2) 疾病の成り立ちと回復の促進

授業科目	臨床検査	担当教員	児玉 憲一	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における臨床検査の位置づけと意義を理解する。</li> <li>2. 主な臨床検査の性質や検体の採取にあたっての準備や注意事項および検査結果の解釈の仕方を理解する。</li> <li>3. 臨床検査における看護師の役割と、検査に関連して起こりうる医療事故防止の看護師に求められる対応について理解する。</li> </ol>						
回数	学 習 内 容						
1 H	1. 医療における臨床検査の意義						
2 H	2. 臨床検査の種類						
2 H	3. 臨床検査の進め方（流れ）						
1 H	4. 臨床検査における看護師の役割						
8 H	5. 主な臨床検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般検査</li> <li>2) 血液検査</li> <li>3) (臨床) 化学検査</li> <li>4) 免疫・血清検査、輸血検査</li> <li>5) ホルモン検査</li> <li>6) 微生物検査（感染症検査）</li> <li>7) 病理検査</li> <li>8) 生理機能検査</li> </ol>						
試験 1 時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻6 臨床検査 (医学書院)						

授業科目	病態相互演習	担当教員	谷口 優子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年中～後期		
授業形式	演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	<p>1. 人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化する能力を養う。</p> <p>2. 演習をとおして、各専門基礎分野で習得した知識を統合する能力を養う。</p>						
回数	学習内容						
30H	<p>1. 専門基礎分野の内容を統合 器官系統別の代表疾患を選定</p> <p>1) 解剖生理 2) 病態生理 3) 検査 4) 疾患の症状 5) 治療 ( 6) 看護 ) 7) 病態関連図</p> <p style="text-align: center;">} *演習</p> <p>* 演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体オリエンテーション 2H</li> <li>・1)～5)、7)をグループワークで進行 24H</li> <li>・最後に全体で発表し共有 4H</li> </ul>						
成績評価方法	レポート、参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	各分野の参考文献						

3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	関係法規	担当教員	山田 悠貴	単位数	1	時間数	15
			小島 縁	受講年次・時期		3年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	人間の生活における法との関係や看護職に携わる者にとって、もっとも重要な法である保健師助産師看護師法を中心に、医事や衛生、社会保障、労働などの関係法令について理解する。						
回数	学習内容						
2H	1. 法の概念 1) 法とは 2) 法の種類						
6H	2. 衛生法規 1) 衛生法規の意義 2) 衛生法規の沿革 “医療関係法令” 3) 衛生法規の分類 ・医事法 (医師法・医療法) ・薬務法 (詳しくは「薬理学」で学習) ・保健衛生法 (詳しくは「公衆衛生学」、「健康支援論」で学習) ・予防衛生法 ・環境衛生法 } (詳しくは「公衆衛生学」で学習) ・労働法 ・社会保険法 (詳しくは「社会福祉」で学習)						
6H	3. 厚生行政のしくみ						
試験 1 時間	4. 保健師助産師看護師法 1) 目的 2) 定義 3) 構造と内容  5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 1) 目的 2) 定義 3) 活動内容						
成績評価方法			筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他			系看 専門基礎分野 看護関係法令 (医学書院)				



3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	公衆衛生学	担当教員	苗村 光廣 西田 大介	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	3年次・後期		
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	人々の健康の保持・増進、疾病予防を目的とし、保健・医療・福祉に関する社会資源の整備と有効な活用を図り、身体的、精神的、社会的に個人と社会の能力を十分に発揮させるための組織や活動内容を理解する。						
回数	学習内容						
4 H	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の意義 2) 公衆衛生の歴史 3) 公衆衛生の活動対象  2. 公衆衛生のしくみ 1) 政策展開 2) 国・地方自治体の役割 3) 国際保健						
4 H	3. 環境と健康 1) 地球規模の環境と健康 2) 身のまわりの環境と健康  4. 集団の健康をとらえるための手法 一疫学一						
6 H	5. 地域保健 1) 母子保健                      5) 歯科保健 2) 成人保健                      6) 難病支援・障害支援 3) 高齢者保健                  7) 感染症対策 4) 精神保健  ※ 5. 1)、2)、3)、6. は「健康支援論」 5. 4) は「精神看護学概論Ⅱ」 5. 6) は「社会福祉」「リハビリテーション概論」で学習						
試験 1 時間	6. 学校と健康 7. 職場と健康 8. 健康危機管理・災害保健						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎分野 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向						

3) 社会保障制度と生活者の健康

授業科目	社会福祉	担当教員	西村 りょう子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	社会福祉の発達、理論、社会福祉制度について知るとともに、社会環境激変の中での国民の福祉ニーズ、そのニーズに応えるための方法や制度、サービスの活用について理解する。						
回数	学習内容						
2H	1. 社会保障制度の概念	3H	8. 公的扶助				
2H	2. 社会福祉の法制度 1) 社会福祉法 2) 福祉6法	3H	1) 生活保護制度 2) 低所得者対策				
2H	3. 社会福祉の歴史 1) 社会福祉の成立 2) 前近代の救済 3) 近代の救済	3H	9. 障害者福祉				
4H	4. 現代社会の変化と社会保障 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向 3) 他職種連携	3H	10. 児童福祉				
4H	5. 医療保障 1) 医療保障制度 2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度						
2H	6. 介護保障 1) 介護保険制度創設の背景 2) 高齢者福祉と介護保険						
4H	7. 所得保障 1) 年金制度 2) 雇用保険制度 3) 労働者災害補償制度						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験、レポート、授業への参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門基礎分野 社会福祉 (医学書院) 社会福祉小六法						

3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	リハビリテーション概論	担当教員	北村 淳 川瀬 智隆 本江 真人	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験 有		必修・選択別		必修	
学習目標	1. リハビリテーションの理念やリハビリテーション看護の専門性を理解する。 2. チーム医療としてのリハビリテーションの具体的な活動内容を通して、看護師の役割を理解する。						
回数	学 習 内 容						
2H	1. リハビリテーションの歴史と理念 1) リハビリテーションの変遷 2) 障害者の定義 3) 障害の制度 4) 疾病、障害、生活機能の分類						
3H	2. リハビリテーションにおけるチームアプローチ 3. リハビリテーション看護の概論 1) リハビリテーション看護の概念、機能 2) リハビリテーション看護の方法論 演習（関節可動域訓練・自動他動運動・松葉杖）						
2H	4. リハビリテーションを必要とする対象の特徴とその家族の理解						
4H	5. リハビリテーション看護の実際 1) 新たな生き方の発見に向けたリハビリテーション看護 (1) 障害の受容への働きかけ (2) 自立への歩み・新たな価値観の獲得への支援 2) 自己実現の達成を支えるリハビリテーション看護 (1) QOLの向上に向けた生活行動の再獲得 (2) 生活行動の再獲得に向けた具体的なリハビリテーション						
3H	3) 障害・状態別リハビリテーション看護 (1) 運動機能障害をもつ人のリハビリテーション看護(脊髄損傷含む) (2) 認知障害・コミュニケーション(脳神経系)障害をもつ人のリハビリテーション看護 (3) 感覚器機能(視覚・聴覚)障害をもつ人のリハビリテーション看護						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 別巻3 リハビリテーション看護 (医学書院)						

### 3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	総合保健医療論	担当教員	琴浦 良彦	単位数	1	時間数	15
			野田 秀樹	受講年次・時期		3年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		有					
学習目標	社会福祉、関係法規における学びをつなげるとともに、現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその問題発生の背景を知ることによって、専門職として社会に貢献する方向性・視点について理解する。						
回数	学習内容						
4 H	1. 医学・医療の変遷 1) 医療の本質と現代医療の特徴 2) 人間の健康・生活の変遷と医療・保健 ・救急医療体制 ・医療変革 ・地域包括医療						
6 H	2. 医療倫理 1) 医療倫理とは 2) インフォームドコンセントとQOL 3) 患者の安全 4) 情報開示と個人情報保護 5) バイオエシックス 6) 先端医療と倫理問題						
4 H	3. わが国の医療保障の現状と課題 1) わが国の医療保険制度 2) 国民医療費の動向 3) 医療経済・看護経済 4) 診療報酬の仕組みと看護の対価						
試験 1 時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		国民衛生の動向 系看 専門基礎分野 総合医療論 (医学書院)					

3) 健康支援と社会保障制度

授業科目	健康支援論	担当教員	谷口 奈津子 北川 幹子 水口 藍 楢本 まどか	単位数	1	30
				受講年次・時期		2年次・前期
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		有				
学習目標	人間の生涯を通じた健康づくりとして、健康増進と生活習慣病対策、また、母子および高齢者の保健対策のあゆみや実状を理解する。					
回数	学 習 内 容					
4H	1. 衛生行政活動の概況 1) 地域保健法 2) 保健所の業務・機能 3) 市町村保健センターの業務・機能 (主に保健師の保健活動)	5H	6. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 1) 地域包括ケアシステム 2) ケアマネジメントと看護 3) 関係職種との連携 4) 在宅ケアシステムの実際			
4H	2. 人間の生涯を通じた健康づくりの意義	6H	7. 母性・小児における健康支援 1) 母子保健行政のあゆみ ・母子保健法 ・健やか親子21 2) 母子保健対策の現状 3) 学校保健 4) 予防接種			
4H	3. 成人保健の動向と成人の健康保持増進 1) 成人の身体と生活の特徴 2) 健康指標にみる成人の特徴 3) 成人期の保健活動 ・健康日本21 ・健康増進法 ・がん対策基本法					
4H	4. 生活習慣病の早期発見・早期治療 1) 生活習慣病を早期発見するための仕組み 2) メタボリックシンドローム 3) 生活習慣改善の知識 4) 高齢者の医療確保に関する法律					
6H	5. 高齢者と社会システム 1) 保健医療、福祉制度の概要 2) 介護保険制度の概要・改正点 3) 予防重視型システム 4) 地域包括支援センター 5) 医療保険制度の改革 6) 訪問看護制度					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門基礎分野 公衆衛生 (医学書院) 国民衛生の動向				

# 專 門 分 野 I

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	基礎看護学概論	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基本となる概念を理解する。</li> <li>2. 看護の対象である人間を総合的に理解する。</li> <li>3. 健康の概念を理解する。</li> <li>4. 人間を取り巻く環境について理解する。</li> <li>5. 保健医療福祉の中で看護の果たす役割、機能について理解する。</li> <li>6. 看護の倫理について、考えることができる。</li> </ol>					
回数	学習内容					
8 H	1. 看護の概念					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の定義</li> <li>2) 看護の役割と機能</li> <li>3) 職業としての看護</li> </ol>					
7 H	2. 看護における人間					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護の対象としての個人</li> <li>2) 各ライフサイクルステージにおける身体的・精神的・社会的特徴と発達課題</li> <li>3) 人間の欲求</li> <li>4) 対象の心理</li> </ol>					
8 H	3. 健康の概念					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康の定義</li> <li>2) 健康に影響する要因・健康の成立要因</li> <li>3) 健康水準と看護活動</li> <li>4) 自己ケアとプライマリーヘルスケア</li> <li>5) 健康観、クオリティオブライフ</li> </ol>					
	4. 環境の概念					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境とは</li> <li>2) 物理・化学・生物学的環境</li> <li>3) 社会・文化的環境 (家族、地域社会、民族・文化)</li> <li>4) 適応と対処機制</li> </ol>					
6 H	5. 保健・医療・福祉における看護の役割					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健・医療・福祉の概念</li> <li>2) 保健・医療・福祉の場と看護</li> <li>3) 保健・医療・福祉のチームと看護チーム</li> <li>4) 専門職としての看護職 (看護師の職務)</li> <li>5) 看護の継続性</li> </ol>					
	6. 看護倫理					
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業倫理</li> <li>2) 看護者の倫理綱領</li> <li>3) 倫理の原則</li> </ol>					
試験 1 時間						
成績評価方法	筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他	系看 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学 [1] (医学書院) 看護覚え書 (現代社)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	共通基本技術 I (総論・コミュニケーション・感染予防)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1 年次・前期	
授業形式	講 義 ・ 演 習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 看護技術の特殊性を理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を理解できる。 3. 感染予防の意義を理解し、安全を守るための技術が習得できる。					
回数	学 習 内 容					
2 H	1. 基礎看護技術総論					
	1) 看護技術とは					
	2) 看護技術の構造					
1 5 H	2. 人間関係を成立・発展させる技術					
	1) 看護実践における人間関係の必要性					
	2) 看護におけるコミュニケーション技法					
	3) 看護にいかすコミュニケーション					
	4) 看護実践における人間関係の必要性					
	プロセスレコードの考察 (演習)					
	5) 看護と人間尊重					
8 H	3. 感染予防技術					
2 H	1) スタンダードプリコーション ( 演習 )					
	2) 感染性医療廃棄物の取り扱い (演習)					
	3) 針刺し事故防止策					
2 H	4) 消毒と滅菌 (演習)					
	5) 無菌操作 (演習)					
試験 1 時間						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他	系看 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 [2] (医学書院) 系看 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学 [3] (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)					



専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	共通基本技術Ⅱ (対象把握、 バイタルサイン)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 観察・記録・報告の意義が理解でき、技術が習得できる。 2. バイタルサインの意義と看護上の重要性が理解できる。 3. バイタルサインの測定ができる。 4. 呼吸・循環・体温を整える援助技術を習得する。					
回数	学習内容					
4 H	1. 観察技術 1) 観察の意義 2) 観察の基礎 3) 観察の方法と内容					
10 H	2. 記録・報告技術 1) 看護における記録 2) 記録の実際と報告					
4 H	3. 症状・生体機能管理技術 1) バイタルサインの意義 2) バイタルサインの観察 (1) 体温、脈拍、呼吸、血圧、意識 (2) 症状、病態の観察					
4 H	3) バイタルサイン測定の実際(演習) (1) 体温、脈拍、呼吸、血圧、パルスオキシメーター (実技試験：バイタルサインの測定)					
6 H	4. 呼吸・循環を整える技術 1) 呼吸・循環のメカニズム 2) 呼吸を楽にする援助 3) 循環・体温を調整するための援助					
4 H	4) 呼吸を楽にする援助の実際 ・ 酸素吸入療法 (演習) ・ 酸素ボンベの操作 (演習) ・ 気道内加湿法 (演習) ・ 吸引(口腔、鼻腔) (演習)					
試験2時間						
成績評価方法	筆記試験、実技試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他	系看 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学〔2〕 (医学書院) 系看 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学〔3〕 (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術 I (環境、活動・休息)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 人間にとっての生活環境と、健康生活における活動・休息の意義を理解する。 2. 生活環境の調整・整備のための基本的技術を習得する。 3. 病人に対する活動・休息の必要性和援助方法を習得する。					
回数	学習内容					
8 H	1. 環境調整技術					
	1) 健康生活と環境 2) 患者の生活環境 3) 生活環境の調整					
4 H	(1) 療養生活環境調整 (温・湿度、換気、採光、臭気、騒音) (2) 病床整備 (演習) (3) ベッドメイキング (演習) (4) リネン交換 (臥床患者のリネン交換) (デモンストレーションのみ)					
8 H	2. 活動・休息援助技術					
	1) 健康生活と活動休息 2) 活動と休息の援助					
3 H	(1) ボディメカニクスの原理 (演習) (2) 体位変換/体位保持 (安楽物品) (演習) (3) 移乗・移送の介助 (車椅子・ストレッチャー) (演習)					
2 H	3) 廃用症候群予防					
2 H	3. 安楽を促進し、安寧を保つための援助					
	1) リラクゼーション (1) マッサージ (2) 罨法 (温罨法、冷罨法)					
4 H	4. 患者の状況に応じた環境整備 (演習)					
試験 1 時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学 [3] (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)				

専門分野Ⅰ－基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)	担当教員	単位数	1	時間数	30	
			受講年次・時期		1年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 人間にとっての食及び排泄の意義とメカニズムが理解できる。 2. 食及び排泄の援助技術を習得する。 3. 食及び排泄の援助を受ける対象の心理を理解し、態度を養う。						
回数	学 習 内 容						
7 H	1. 食事援助技術						
	1) 食の意義とメカニズム 2) 食の観察とアセスメント 3) 食生活支援 4) 誤嚥予防・食事介助 5) 経管栄養法						
14 H	2. 排泄援助技術						
	1) 排泄の意義とメカニズム 2) 排泄の観察とアセスメント						
4 H	3) 自然排尿・排便の援助						
	便器・尿器、ポータブルトイレの使い方(演習) 4) 排便困難時の援助 浣腸(演習)						
4 H	5) 排尿困難時の援助						
	導尿(演習) 膀胱留置カテーテル						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験				(授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)	
参考文献他		系看 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔3〕(医学書院)				看護技術プラクティス (学研)	

専門分野Ⅰ－基礎看護学

授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (清潔・衣生活)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 人間にとっての衣服・身体清潔の意義を理解する。 2. 健康障害時の清潔の必要性について理解する。 3. 衣生活の援助技術を習得する。 4. 身体清潔の援助技術を習得する					
回数	学習内容					
4H	1. 衣生活の援助技術					
	1) 衣服の意義					
	2) 衣の選択					
3H	3) 臥床患者の寝衣交換 (演習)					
10H	2. 清潔の援助技術					
	1) 身体清潔の意義					
	2) 皮膚・粘膜の構造と機能					
	3) 身体各部の清潔方法					
3H	(1) 洗髪・整容 (演習)					
4H	(2) 清拭 (演習)					
2H	(3) 口腔ケア・義歯の取り扱い (演習)					
3H	(4) 部分浴・陰部ケア (演習)					
試験1時間						
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他	系看護専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔3〕 (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術 I (与薬)	担当教員	岡田 英恵	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 与薬の目的及び看護の役割を理解する。 2. 与薬の基礎知識を理解し、各種与薬方法を習得する。						
回数	学 習 内 容						
5H	1. 与薬の基礎知識 1) 剤形と吸収経路 2) 看護師の役割 3) 正しい与薬 4) 薬の管理						
12H	2. 援助の基礎知識・援助の実際 1) 経口・吸入・点眼・経皮薬の与薬方法						
2H	2) 直腸内与薬方法 (演習)						
4H	3) 皮下・筋肉内・静脈内注射の方法 (演習)						
4H	4) 点滴静脈内注射・三方活栓・輸液量調節・刺入部位の管理 (演習)						
	5) 輸液ポンプの操作 (演習)						
	6) 中心静脈内注射の管理						
2H	3. 輸血の管理						
試験 1 時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看護 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学〔3〕 (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ (検査)	担当教員	大久保 順子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 検査に伴う援助が理解できる。 2. 静脈血採血の方法が習得できる。						
回数	学 習 内 容						
2H	1. 検査時の看護の役割						
6H	2. 検査時の援助 1) 身体計測 (身長・体重・腹囲・胸囲・握力) 2) 尿検査 3) 血液検査 4) 腰椎穿刺 5) 骨髄穿刺						
2H	3. 検体の採取の方法と取り扱い方						
4H	静脈血採血 (演習)						
試験 1 時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 [2] (医学書院) 系看 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 [3] (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)						

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	看護過程 I (理論)	担当教員		単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 主要な看護理論家の看護に対する考え方を理解する。 2. 看護過程の意義、方法について理解する。						
回数	学 習 内 容						
4 H	1. 看護理論とは 1) 看護理論とは 2) 看護理論を学ぶ必要性 3) 看護理論の範囲 4) 看護におけるメタパラダイム 5) 看護理論の歴史的変遷 6) 看護理論と看護過程						
6 H	2. 主要な看護理論家の看護に対する考え方 1) ナイチンゲール「環境論」 2) ヘンダーソン「ニード論」 3) ウィーデンバック「臨床看護での援助技術」 4) ベナー「技術習得モデル」 5) ペプロウ「人間関係の看護論」 6) トラベルビー「人間対人間の関係モデル」 7) ロイ「適応モデル」 8) オレム「セルフケア理論」 9) 薄井坦子「科学的看護論」						
2 H	3. 看護過程 1) 看護過程の意義 2) 看護過程の定義 3) 看護過程の構成要素 (アセスメント、診断、計画、実施、評価)						
2 H	4. 看護実践に必要な理論的知識 1) 看護学に必要な4つの知の形態 2) クリティカルシンキング						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		看護理論 (南江堂) 看護覚え書き (現代社) 系看 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学 [2] (医学書院)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	看護過程Ⅱ (展開)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 看護過程の展開方法の基本を理解する。 2. 看護診断の意義を学び、看護診断の方法を理解する。					
回数	学習内容					
2H	1. 看護診断とは					
	1) 看護診断とは					
	2) 患者プロフィールとは					
8H	2. アセスメント					
	1) 看護診断のためのアセスメントツール					
	(1) ゴードンの機能的健康パターン11項目					
4H	3. 看護診断					
	1) 看護診断について					
	(1) 看護診断の構成要素とプロセス					
	(2) 看護診断の種類					
	(3) 看護診断の記述法					
	(4) 看護診断の優先順位について					
	2) 共同問題について					
	3) 関連図について					
4H	4. 計画					
	1) 目標・計画					
	2) その他(クリニカルパス、標準看護計画)					
3H	5. 実施・評価					
8H	6. 事例による基礎的な看護過程の展開(演習)					
	1) データベース					
	2) アセスメント・問題リスト					
	3) 関連図					
	4) 計画					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看護専門分野I基礎看護技術I基礎看護学〔2〕(医学書院) ナーシング・グラフィカヘルスアセスメント(メディカ) 看護診断関連				



専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	フィジカルアセスメント	担当教員	中村 笑美 松井 麻美 山田 みか	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<p>対象者の健康状態を的確に把握するために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>1) 視診、聴診、触診、打診ができる。</p> <p>2) 身体一般のフィジカルアセスメントができる。</p> <p>3) 胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメントができる。</p> <p>4) 胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメントができる。</p> <p>5) 腹部・乳房のフィジカルアセスメントができる。</p> <p>6) 神経系、筋・骨格系のフィジカルアセスメントができる。</p>						
回数	学習内容						
2H	<p>1. フィジカルアセスメントの意義</p> <p>2. フィジカルアセスメントの基礎知識（測定用具の使い方）</p> <p>3. アセスメントテクニック</p> <p>1) スクリーニング</p> <p>2) 系統別アセスメント</p> <p>（全身状態、皮膚・頭髪・爪、血液・リンパ、頭部、眼、耳、鼻、口・喉、頸部、乳房、胸部、心血管、消化器、腎臓、泌尿器、生殖器、筋骨格・四肢、神経、精神）</p>						
15H	<p>4. 系統別フィジカルイグザムの方法</p> <p>（全身状態、皮膚・頭髪・爪、血液・リンパ、頭部、眼、耳、鼻、口・喉、頸部、乳房、胸部、心血管、消化器、腎臓、泌尿器、生殖器、筋骨格・四肢、神経、精神）</p> <p>1) 視診</p> <p>2) 聴診</p> <p>3) 触診</p> <p>4) 打診</p> <p>5. フィジカルアセスメントの実際（演習）</p> <p>（実技試験：フィジカルイグザム）</p>						
3H	1) 一般状態のフィジカルアセスメント						
2H	2) 胸部（肺・胸郭）のフィジカルアセスメント						
2H	3) 胸部（心臓・血管系）のフィジカルアセスメント						
4H	4) 神経系フィジカルアセスメント						
	5) 腹部・乳房フィジカルアセスメント						
試験2時間							
成績評価方法	筆記試験、実技試験 （授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照）						
参考文献他	フィジカルアセスメント完全ガイド（学研） ナシゲ・グラフィカ ヘルスアセスメント（メディカ出版）						

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	臨床看護概論	担当教員	杉山 順哉	単位数	1	時間数	15
			大久保 順子	受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<p>1. 対象者の健康状態レベルに合わせた看護の基礎知識について理解できる。</p> <p>2. 症状にあわせた看護の基礎知識と技術を理解できる。</p> <p>3. 治療処置に伴う看護の基礎知識と技術を理解できる。</p>						
回数	学 習 内 容						
6 H	1. 経過に基づく対象の看護						
	<p>1) 急性期</p> <p>2) 慢性期</p> <p>3) 回復期</p> <p>4) 終末期</p>						
2 H	2. 主要症状の特徴と看護						
	<p>1) 症状とは</p> <p>2) 症状の特徴</p> <p>3) 疼痛のある患者の看護</p>						
6 H	3. 治療処置に伴う看護						
	<p>1) 安静療法と看護</p> <p>2) 手術療法と看護</p> <p>3) 医療用機器と看護</p> <p>4) 放射線治療と看護</p>						
試験 1 時間							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看護 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学〔4〕 (医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研)					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	看護研究	担当教員	木村 千秋	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		3年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的視点から深く考察し、質の高い看護を追求する能力を養う。						
回数	学 習 内 容						
4 H	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における実践と研究 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護研究とは</li> <li>2) 看護研究の意義</li> <li>3) 看護における研究と理論</li> </ol> </li> <li>2. 研究の種類 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 質的なアプローチの研究</li> <li>2) 量的なアプローチの研究</li> </ol> </li> <li>3. 研究の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究テーマ</li> <li>2) 研究計画書</li> <li>3) データ収集と分析</li> <li>4) 研究発表</li> </ol> </li> </ol>						
11 H	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. ケーススタディの実際（演習） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケーススタディとは</li> <li>2) ケーススタディの進め方</li> <li>3) 文献検索の方法、文献の読み方</li> <li>4) 倫理的配慮</li> <li>5) 論文の構成、抄録の構成</li> <li>6) 講評</li> <li>7) 発表の意義・目的</li> <li>8) 発表の実際</li> </ol> </li> </ol>						
成績評価方法		レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		ひとりで学べる看護研究（照林社）					

専門分野 I - 基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習 I (療養環境・コミュニケーション)	担当教員	単位数	1	時間数	45		
			受講年次・時期		1年次・後期			
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修			
		看護師としての臨床経験あり						
学習目的	健康を障害された人の生活状況を理解し、状況に応じた病床環境を整えることができる。							
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の療養生活の環境調整ができる。</li> <li>2. 療養生活をしている患者を理解できる。</li> <li>3. 患者と良好な関係を築くことができる。</li> <li>4. 病院での療養生活を支える人々とその活動を理解できる。</li> </ol>							
学習活動			内 容					
1. 患者の療養生活を知り、看護師とともに環境調整をする。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の病室環境</li> <li>2. 患者の病床環境</li> <li>3. 患者の身体の状態</li> <li>4. 安全・安楽な環境</li> <li>5. 患者のニーズに応じた病床環境</li> </ol>					
2. 看護師とともに行動をし、療養生活をしている患者を理解する。			<table border="0"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の概要の把握</li> <li>2. バイタルサイン測定</li> <li>3. 年齢・性別・医学診断名</li> <li>4. 主訴・現病歴</li> <li>5. 身体の変化 (解剖生理学的視点から)</li> <li>6. 症状</li> <li>7. 入院前の生活状況</li> </ol> </td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 現在の生活状況</li> <li>9. 療養生活に対する思い</li> <li>10. 症状・治療・検査に対する思い</li> <li>11. コミュニケーション技術</li> <li>12. 意図的な情報収集</li> <li>13. 一日の過ごし方</li> <li>14. 生活の変化に対する思い</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の概要の把握</li> <li>2. バイタルサイン測定</li> <li>3. 年齢・性別・医学診断名</li> <li>4. 主訴・現病歴</li> <li>5. 身体の変化 (解剖生理学的視点から)</li> <li>6. 症状</li> <li>7. 入院前の生活状況</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 現在の生活状況</li> <li>9. 療養生活に対する思い</li> <li>10. 症状・治療・検査に対する思い</li> <li>11. コミュニケーション技術</li> <li>12. 意図的な情報収集</li> <li>13. 一日の過ごし方</li> <li>14. 生活の変化に対する思い</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の概要の把握</li> <li>2. バイタルサイン測定</li> <li>3. 年齢・性別・医学診断名</li> <li>4. 主訴・現病歴</li> <li>5. 身体の変化 (解剖生理学的視点から)</li> <li>6. 症状</li> <li>7. 入院前の生活状況</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 現在の生活状況</li> <li>9. 療養生活に対する思い</li> <li>10. 症状・治療・検査に対する思い</li> <li>11. コミュニケーション技術</li> <li>12. 意図的な情報収集</li> <li>13. 一日の過ごし方</li> <li>14. 生活の変化に対する思い</li> </ol>							
3. 看護師の関わりから、良好な関係を築くための行動を理解する。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者への関心</li> <li>2) 患者の思いへの共感</li> <li>3) 傾聴</li> <li>4) 感じたり、考えたりしたことの表現</li> </ol> </li> <li>2. 患者の立場、状況</li> <li>3. 尊重した態度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護者としての話し方</li> <li>2) 看護者としての聴き方</li> <li>3) 環境への配慮</li> <li>4) プライバシーの保持</li> <li>5) 約束の厳守</li> </ol> </li> </ol>					
4. オリエンテーションや看護師とともに行動しながら病院での療養生活を支える人々とその活動を理解する。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の活動</li> <li>2. 活動の意味づけ</li> <li>3. 活動が患者に与える影響</li> <li>4. 報告</li> <li>5. 看護チーム内での情報の共有</li> <li>6. 24時間継続看護</li> <li>7. チーム医療</li> <li>8. 各職種の役割・機能</li> <li>9. 多職種の連携・協働</li> <li>10. 多職種の中の看護の役割</li> </ol>					
成績評価方法	臨地実習の評価要領、基礎看護学実習 I 評価基準に準ずる							

専門分野 I —基礎看護学

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ (対象理解・日常生活援助)	担当教員	単位数	2	時間数	90
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目的	看護の対象を理解し、看護を実践するための基礎的な能力を養う。					
実習目標	1. 看護の視点をふまえ、患者を理解できる。 2. 患者と良好な関係を築くことができる。 3. 患者の日常生活の援助が実施できる。					
学習活動			内容			
1. 患者を理解するために必要な情報を意図的に収集し、心身の状態と生活の変化を知る。			1. 心身の状態 1) 発達段階 2) 健康の段階 3) 疾患・治療 4) 症状 5) 栄養状態 6) 排泄機能 7) 活動レベル 8) 入院・治療に対する思い 2. 生活の変化 1) 入院前の生活状況（家族構成、キーパーソン、社会的役割を含む） 2) 現在の生活状況 3) 生活の変化に対する思い			
2. 自己の関りを振り返り、人間関係構築に向けて必要なことがわかる。			1. 患者への関心 2. 患者の立場や状況を把握 3. 尊重した態度 4. プライバシーの保持 5. 約束の遵守 6. 患者との関わりについて振り返り 7. 振り返ったことを次の関わりに活用			
3. 患者の状態にあった環境調整を行う。			1. 患者に応じた療養環境の把握 2. 患者に応じた清潔な療養環境 3. 患者に応じた安全な療養環境 4. 患者に応じた快適な療養環境			
4. 患者の状態に応じた観察を行う。			1. 患者の状態の把握 2. 観察・バイタルサイン測定 3. コミュニケーション技術の活用 4. 測定結果の報告 1) 測定値・基準値との比較 2) 前回の値との比較 5. 観察内容の報告			
5. 看護師とともに日常生活援助に参加する。			1. 患者の反応 2. 患者の安全 3. 場面に適したコミュニケーション 4. 援助の目的 5. 患者に合った援助 6. 援助方法の変更			
成績評価方法			臨地実習の評価要領、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる			

# 專 門 分 野 II

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学概論	担当教員		単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		1年次・中期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴を3側面から理解する。 2. 成人期における健康問題の特徴を理解する。 3. 成人期の特徴をふまえた看護の方法を理解する。						
回数	学 習 内 容						
8 H	1. ライフサイクルにおける成人各期の特徴と発達課題 1) 青年期・壮年期・中年期 2) 成人の健康観と保健行動 3) 成人教育の概念						
8 H	2. 成人の健康問題の特徴 1) 健康バランスの構成要素と影響を及ぼす因子 2) 生活習慣に関する健康問題 (1) 食生活 (2) 運動 (3) 喫煙 (4) 飲酒 3) 職業生活に関する健康問題 (1) 労働者の健康障害 (2) 職業性疾病の予防と対応 塵肺・レイノー現象・VDT (3) 職場のメンタルヘルス 4) 生活ストレスに関する健康問題 (1) ライフイベントによるストレス 5) セクシュアリティに関する健康問題 (1) 性的健康 (2) 更年期障害 (3) 性感染症						
13 H	3. 成人の健康状態に応じた看護 1) 急性期 2) 回復期 3) 慢性期 4) 終末期 5) 成人の経過に応じた看護の方法 (1) 慢性の経過を辿りセルフケア行動形成に支援が必要な事例 ①成人の個別指導と集団指導 ②指導の実際(演習)						
試験1 H							
成績評価方法	筆記試験、レポート、プレゼンテーション (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	成人看護学①成人看護学総論／成人保健(メヂカルフレンド社) 国民衛生の動向						

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ (急性期、循環・呼吸)	担当教員	田邊 和也 杉村 隆幸 伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある急性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 急性期にある患者の看護過程の展開を通して状態に応じた看護の方法を理解する。						
回数	学 習 内 容				学 習 内 容		
10H	循環器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 狭心症・心筋梗塞 2) 心不全  3. 症状をもつ患者の看護 1) 胸痛 2) 動悸 3) 不整脈 4) 血圧異常・ショック 5) 浮腫 6) 呼吸困難  4. 検査を受ける患者の看護 1) 心電図12誘導 2) 心臓カテーテル検査  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 冠動脈インターベンション 2) 安静療法 3) 心臓リハビリテーション 4) 薬物療法 5) 手術療法			9H	呼吸器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 急性期看護の特徴  3. 疾患をもつ患者の看護 1) 肺炎 2) 慢性閉塞性肺疾患 3) 気胸 4) 肺癌  4. 症状をもつ患者の看護 1) 咳嗽・喀痰・喘鳴 2) 呼吸困難 3) チアノーゼ 4) 胸水  5. 検査を受ける患者の看護 1) 動脈血ガス分析 2) 酸素飽和度測定  6. 治療処置を受ける患者の看護 1) 酸素療法 2) 人工呼吸療法 3) 肺理学療法 4) 低圧持続吸引 胸腔ドレナージ  7. 呼吸を整える援助 1) 体位ドレナージ(演習) 2) 気管内吸引 (演習)		
				試験1H			
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (2) 呼吸器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (3) 循環器 (医学書院)					



専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ (慢性期、内分泌・腎泌尿)	担当教員	角川 和也 荒金 崇介 岡田 英恵	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある慢性期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 慢性期にある患者の看護過程の展開を通して状態に応じた看護の方法を理解する。						
回数	学習内容			学習内容			
9H	内分泌系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 糖尿病 2) 痛風 3) バセドウ病 4) クッシング病  3. 症状をもつ患者の看護 1) 血糖異常 2) 口渇 3) 多飲 4) 多尿 5) やせ・肥満 6) メルセベルグ三主徴  4. 検査を受ける患者の看護 1) 尿糖測定 2) 簡易血糖測定(演習) 3) ホルモン検査  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) インシュリン自己注射 2) 食事療法 3) 運動療法 4) 薬物療法(ステロイド療法)		10H	腎泌尿器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 慢性期看護の特徴  3. 疾患をもつ患者の看護 1) 前立腺肥大症 2) 前立腺癌 3) 腎不全 4) 膀胱癌 5) 腎腫瘍  4. 症状をもつ患者の看護 1) 排尿障害 2) 乏尿 3) 血尿 4) タンパク尿 5) 浮腫 6) 貧血 7) 血圧異常  5. 検査を受ける患者の看護 1) 尿検査 2) 尿流量測定・残尿測定 3) 直腸診 4) 腎生検 5) 内視鏡検査(DIP 膀胱鏡) 6) 静脈性腎盂造影  6. 治療処置を受ける患者の看護 1) 血液透析・腹膜透析 2) 食事療法 3) 薬物療法 4) 手術療法  7. 排尿を整える援助 1) 自己導尿 2) ウロストミーケア			
10H	6. 事例展開 1) 糖尿病の壮年期男性の看護過程 (1) アセスメント (2) 診断 (3) 計画						
試験1H							
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (6) 内分泌・代謝 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (8) 腎・泌尿器 (医学書院)					

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ (回復期、脳神経・運動)	担当教員	本江 真人 次郎内 茂	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある回復期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 回復期にある患者の状態に応じた看護を理解する。						
回数	学 習 内 容				学 習 内 容		
15H	脳神経系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 脳出血 2) 脳梗塞 3) 脳腫瘍 4) パーキンソン病 5) ALS  3. 症状をもつ患者の看護 1) 意識障害 2) 運動失調 3) 失語 4) 運動麻痺 (1) 麻痺のある患者の日常生活 援助 5) 痙攣 6) 頭蓋内圧亢進症状 7) 嚥下障害 8) 感覚麻痺  4. 検査を受ける患者の看護 1) CT・MR 2) 髄液検査 3) 脳波 4) 脳アンギオ 5) 意識レベル判定  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) リハビリテーション 2) 嚥下訓練 3) 手術療法 4) 薬物療法			14H	運動器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 回復期看護の特徴  3. 疾患をもつ患者の看護 1) 骨折 2) 腰椎椎間板ヘルニア 3) 脊髄損傷 4) 関節リウマチ 5) 骨粗鬆症  4. 症状をもつ患者の看護 1) 変形 2) 疼痛 3) 腫脹 4) 運動麻痺 (1) 関節可動域制限のある患者の 日常生活援助  5. 検査を受ける患者の看護 1) 関節可動域測定 2) 骨密度測定 3) ミエログラフィ 4) 徒手筋力テスト  6. 治療処置を受ける患者の看護 1) 理学療法・作業療法 2) 義肢・装具 3) 牽引 4) 手術療法 5) 包帯法 6) 松葉杖歩行		
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (7) 脳・神経(医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (10) 運動器(医学書院)					

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ (終末期、血液造血・消化)	担当教員	富永 治美 新木 貴枝 西村 好栄	単位数	1	時間数	30	
				受講年次・時期		2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修			
		看護師としての臨床経験あり						
学習目標	1. 成人期にある終末期の対象の特徴・健康の状態を理解する。 2. 終末期にある患者の状態に応じた看護を理解する。							
回数	学 習 内 容			学 習 内 容				
10H	血液、造血器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 悪性リンパ腫 2) 急性骨髄性白血病 3) HIV感染症とAIDS  3. 症状をもつ患者の看護 1) 易感染状態 2) 出血傾向 3) 貧血  4. 検査を受ける患者の看護 1) 末梢血液検査 2) 骨髄検査 3) リンパ節生検  5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 化学療法 2) 輸血療法 (1) 輸血用製剤 (2) 輸血療法の看護 3) 骨髄移植、幹細胞移植術 4) クリーンルーム、加熱食			11H	消化器系疾患患者の看護 1. 患者の特徴  2. 疾患をもつ患者の看護 1) 大腸がん 2) 肝硬変・肝臓がん 3) 胆のう炎・胆石症 4) 膵臓癌  3. 症状をもつ患者の看護 1) 腹痛 2) 便秘 3) 下痢 4) 腹部膨満 5) 嘔気嘔吐 6) 腹水 7) 黄疸 8) 肝性脳症  4. 検査を受ける患者の看護 1) 内視鏡検査 (胃内視鏡 大腸内視鏡) 2) 造影検査 (DIC ERCP PTC) 3) 腫瘍マーカー 4) 腹水穿刺			
8H	終末期にある患者の看護 1. 終末期医療 2. 緩和ケア 3. 全人的苦痛への看護 4. その人らしい生活への看護 5. 家族支援 1) エンゼルケア 6. グリーフケア 7. 様々な場における終末期ケア			試験1H	5. 治療処置を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 食事療法 3) 中心静脈栄養 4) 安静療法 5) 減黄ドレナージ			
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学 (5) 消化器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (4) 血液・造血器 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 成人看護学 (11) アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 新体系看護学全書 経過別成人看護学4 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア						

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学援助論Ⅴ (外科系、急性～回復期)	担当教員	山口 未来人 笠原 みすず	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 成人期にある周手術期の対象の特徴、健康の状態を理解する。 2. 周手術期にある患者の看護過程の展開を通して状態に応じた看護の方法を理解する。						
回数	学 習 内 容			学 習 内 容			
4H	1. 周手術期の看護の特徴		2H	7. 人工肛門増設術を受けた患者の看護 1) ストーマケア 2) 日常生活への支援			
4H	2. 手術侵襲と生体反応 1) Moorの分類 2) 神経・内分泌反応		7H	8. 事例展開 1) 手術療法を受ける壮年期男性の看護過程 (1) アセスメント (2) 診断 (3) 計画			
4H	3. 創傷治癒過程 1) 創傷治癒過程の各相 2) 手術創部の観察と処置 創傷処置(演習)						
11H	4. 開腹・開胸・鏡視下術の特徴						
	5. 術前の看護 1) アセスメント 2) 術前オリエンテーション 3) 術後合併症予防の援助 4) 患者と家族の心理への援助						
	6. 術後の看護 1) 患者のアセスメント 2) 回復促進への援助 3) 合併症予防の援助 4) 日常生活を整える援助 (1) 持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換(演習) 5) 患者と家族の心理への援助		試験1H				
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看別巻 臨床外科看護総論(医学書院) 系看別巻 臨床外科看護各論(医学書院)					

専門分野Ⅱ－成人看護学援助論マトリックス

科目名	単位	時間数	系統別	主要症状	治療処置	検査	看護技術	関連疾患	
急性期にある患者の看護	1	30	20	循環	胸痛、動悸、不整脈 血圧異常、ショック 浮腫、呼吸困難	インターベンション療法 安静療法 心臓リハビリテーション 薬物療法 手術療法	心電図12誘導 心臓カテーテル検査	AMIの患者の看護過程の展開	狭心症 心筋梗塞 心不全
			10	呼吸	咳嗽、喀痰、喘鳴 呼吸困難 チアノーゼ 胸水	酸素療法 人工呼吸療法 肺理学療法 低圧持続吸引 胸腔ドレナージ	動脈血ガス分析 酸素飽和度測定	体位ドレナージ(演) 気管内吸引(演)	肺炎 COPD 気胸 肺癌
慢性期にある患者の看護	1	30	20	内分泌	血糖異常、口渇 多飲、多尿 やせ、肥満 メルセベルグ三主徴	インシュリン自己注射 食事療法 運動療法 ステロイド療法	尿糖測定 簡易血糖測定(演) ホルモン検査	DMの患者の看護過程の展開	糖尿病 痛風 パセドウ病 クッシング病
			10	腎・泌尿器	排尿障害 乏尿、血尿 タンパク尿、浮腫 貧血、血圧異常	血液透析 腹膜透析 食事療法 薬物療法 手術療法	尿検査 尿流量測定 残尿測定 直腸診、腎生検 内視鏡検査 静脈性腎盂造影	自己導尿 ウロストミーケア	前立腺肥大症 前立腺癌 腎不全 膀胱癌 腎腫瘍
回復期にある患者の看護	1	30	15	脳神経	意識障害 運動失調 失語、運動麻痺 痙攣、嚥下障害 頭蓋内圧亢進症状 感覚麻痺	リハビリテーション 嚥下訓練 手術療法 薬物療法	CT、MR 髄液検査 脳波、脳アンギオ 意識レベル判定	麻痺のある患者の日常生活援助	脳出血 脳梗塞 脳腫瘍 パーキンソン病 ALS
			15	運動	変形、疼痛 腫脹、運動麻痺	理学療法 作業療法 義肢、装具 牽引 手術療法 包帯法 松葉杖歩行	関節可動域測定 骨密度測定 ミエログラフィ 徒手筋力テスト	関節可動域制限のある患者の日常生活援助	骨折 腰椎椎間板ヘルニア 脊髄損傷 関節リウマチ 骨粗鬆症
終末期にある患者の看護	1	30	10	血液・造血器	易感染状態 出血傾向 貧血	化学療法 輸血療法 骨髄移植 幹細胞移植術	末梢血液検査 骨髄検査 リンパ節生検		悪性リンパ腫 ALL HIV、AIDS
			12	消化	腹痛、便秘、下痢 腹部膨満 嘔気、嘔吐 腹水、黄疸 肝性脳症	薬物療法 食事療法 中心静脈栄養 安静療法 減黄ドレナージ	内視鏡検査(GIF、CF) 造影検査(DIC、ERCP、PTC) 腫瘍マーカー 腹水穿刺		大腸がん 肝硬変・肝臓がん 胆のう炎・胆石症 膵臓癌
			8					緩和ケア 家族支援 グリーフケア エンゼルケア	
外科系急性期回復期	1	30			術前訓練	術前検査	創傷処置(演) ストーマケア 持続点滴内注射実施中の患者の寝衣交換(演) 手術療法を受ける患者の看護過程	胃癌 大腸癌 食道癌 胆石症 乳癌	

(演) 演習

専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学実習 I (慢性期)	担当教員	青木 愛子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	成人期にある慢性期(あるいは他の経過各期)の対象を理解し、セルフケア能力向上にむけた看護ができる能力を養う。						
学習目標	1. 発達段階をふまえ、慢性期(あるいは他の経過各期)にある対象の特徴を理解できる。 2. 発達段階をふまえ、慢性期(あるいは他の経過各期)にある対象のセルフケア能力に応じた実践ができる。 3. 慢性期にある対象のセルフケア能力向上に向けた看護が理解できる。						
学 習 活 動	内 容						
1. 慢性期(あるいは他の経過各期)にある対象の経過を踏まえ、機能低下や変化について理解する。	1. 発達段階 2. 病態 3. 治療経過 4. 検査データの推移 5. 症状の変化病気による機能の変化 6. 生活歴 7. 生活様式 8. 既往歴 9. 経過別 10. 治療の継続や検査による身体の苦痛 11. 合併症による苦痛 12. 病気に対する受け止め方や心理的反応 13. 自己の健康観 14. セルフケア能力 15. リハビリテーションの様子 16. 社会的役割 17. 家族・周囲との関係 18. 家族・周囲の思いやサポート力 19. 看護上の問題 20. 関連因子、危険因子						
2. 慢性期(あるいは他の経過各期)にある対象の機能の低下や変化を踏まえ、対象のセルフケア能力に応じた援助を実践する。	I 1. 看護問題が解決に向かうための目標、具体策 2. 発達段階、経過別 3. 症状、治療、処置、検査、セルフケア状況 4. 具体的で実践可能 5. 生活習慣・生活様式 6. 実践可能な計画 II 1. 実施可能かの判断 2. 他の援助との調整 3. 援助の時間設定、タイミング 4. わかりやすい説明と同意 5. 反応を捉える 6. 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション 7. 必要な観察、声かけ 8. 発達段階、経過別、症状、治療、セルフケア状況 9. 生活習慣・生活様式 10. 安全、安楽、プライバシーの確保 11. 計画の変更 III 1. 必要な事実の選択 2. 事実のアセスメント 3. 目標の達成状況 4. 看護問題の状況 5. 危険因子、関連因子の状況 6. 次への具体策、計画の修正、変更 IV 1. 緊急度、優先度の判断 2. 実施したことや患者、家族の反応 3. 事実に基づいた判断 4. 時宜を得た報告 5. チームでの情報交換 6. チーム間の連携						
3. 慢性期にある対象のセルフケア能力向上に向けた看護を理解する。	1. 慢性期、慢性疾患、慢性期看護の特徴 2. 患者、家族の状態 3. 発達段階 4. エンパワメント 5. コンプライアンス 6. セルフケアとセルフマネジメント 7. 経済的サポート 8. 保健医療福祉の連携、多職種連携 入院と外来、入院と在宅、入院と施設、地域連携、社会資源の活用 9. 継続的な看護						
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人看護学実習 I 評価基準に準ずる						

## 専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学実習Ⅱ（終末期）	担当教員	岡田 英恵	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	終末期にある対象への援助ができ、死生観・看護観を養う。						
学習目標	1. 終末期にある対象の身体的、心理社会的特徴が理解できる。 2. 終末期にある対象のQOLを維持・向上するための実践ができる。 3. 対象との関わりをとおして終末期看護について考えを深めることができる。						
学 習 活 動	内 容						
1. 終末期（あるいは他の経過各期）にある対象の経過を踏まえ、機能低下や変化について理解する。	1. 現病歴 2. 既往歴 3. 病名告知の有無、告知内容の把握 4. 治療方針・治療内容の把握 5. 発達段階 6. 機能の低下や変化に至る経過 7. 訴えや症状の発生機序 8. 苦痛（身体的・精神的・社会的・霊的） 9. 死の受容プロセス 10. セリフ能力の変化・状態 11. 症状の変化病気による機能の変化 12. 日常生活の規制、それに対する反応 13. 気分転換、リラックス手段 14. 疼痛、疼痛緩和の方法、倦怠感、脱力感 15. 検査データの変化、治療内容の認知度、病気に対する受け止め方や心理的反応 16. 回復への期待、予後への意欲、依存傾向、あきらめ 社会的役割 17. 家族・周囲の思いやサポート力、精神的苦痛 18. 死に対する思い、最期をどう過ごしたいか 19. 社会的役割、家族・周囲との関係、経済的影響 20. 生活環境 21. 生活習慣、趣味、嗜好 22. 社会関係						
2. 機能の低下や変化により生じた苦痛、QOL、患者・家族（取り巻く人々）の意向に応じた援助を実践する。	1. 看護計画の活用 2. 苦痛の緩和への工夫・配慮 3. 嘔気、嘔吐 4. 食欲不振 5. 全身倦怠感 6. 脱力感 7. 呼吸困難感 8. 訴えの傾聴（判断を加えない） 9. 希望を把握し配慮 10. 状態に合わせた日常生活援助 1) 清潔への援助 2) 活動や休息への援助 3) 排泄への援助 4) 食事への援助 5) 環境調整 11. 生活習慣 12. QOL 13. 回復、予後に対する思い 14. 希望を把握し配慮 15. 羞恥心、依存心、申し訳ない気持ちへの配慮 16. 反応を捉える 17. 苦痛の表出 18. 共感的態度 19. これまでの人生を肯定 20. 寄り添う 21. 家族や大切な人々との時間を共有 22. 緊急度、優先度の判断 23. 実施したことや患者、家族の反応 24. 事実に基づいた判断 25. 時宜を得た報告 26. チームでの情報交換 27. チーム間の連携						
3. 関わりをとおして終末期看護を理解する。	1. 終末期各段階における看護の特徴 2. 命の尊さ 3. QOL 4. 最期をどう関わっていくのか 5. 家族や対象を取り巻く人々への対応 6. 面会・付き添い 7. 援助への参加 8. 嗜好品の準備 9. 外出・外泊 10. 心身の苦痛への配慮						
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる						

## 専門分野Ⅱ－成人看護学

授業科目	成人看護学実習Ⅲ (急性・回復期)	担当教員	中村 笑美	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	成人期にある急性期回復期の対象を理解し、術後合併症予防や社会復帰に向けた看護ができる能力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の発達段階と、身体・心理社会的特徴をふまえ、急性期・回復期にある対象が理解できる。</li> <li>2. 対象の発達段階と、身体・心理社会的特徴をふまえ、術後合併症予防や社会復帰に向けた援助ができる。</li> <li>3. 急性期・回復期の看護について考えを深めることができる。</li> </ol>						
学習活動	内 容						
1. 手術侵襲からの回復の程度を理解して、術後合併症予防や退院後の生活に向けた援助をする。	<b>I</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護計画の活用</li> <li>2. 発達段階</li> <li>3. 病態・経過別</li> <li>4. 麻酔方法・術式・再建方法</li> <li>5. 開腹術, 腹腔鏡視下手術</li> <li>6. 留置ドレーンの種類と位置</li> <li>7. 手術中の状態 (バイタルサイン・出血・輸液・尿量・使用薬剤・術中体位・麻酔覚醒・退室時のバイタルサイン)</li> <li>8. 手術後の状態 (呼吸・バイタルサイン・出血・尿量・意識レベル・発熱・疼痛・ADL・離床状況・心理状態)</li> <li>9. 創部・ドレーンの観察</li> <li>10. 輸液・使用薬剤 <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 疼痛コントロール</li> <li>12. ムーアの分類・創傷治癒過程</li> <li>13. 検査データ</li> <li>14. 術後合併症 (麻酔方法、術式・再建方法、既往歴によるもの、他)</li> <li>15. ドレーン類の管理</li> </ol> </li> </ol>						
	<b>II</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疼痛・倦怠・疲労・発熱・呼吸困難・不眠・不安・バイタルサインの変動・体動困難</li> <li>2. ドレーン類の影響</li> <li>3. 苦痛を軽減するための援助</li> <li>4. 合併症予防</li> <li>5. 早期離床</li> <li>6. 状態に合わせた日常生活援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 清潔への援助</li> <li>2) 活動や休息への援助</li> <li>3) 排泄への援助</li> <li>4) 食事への援助</li> <li>5) 環境調整</li> </ol> </li> <li>7. 発病前・入院前の生活の様子</li> <li>8. 形態的变化・機能的変化が生活に及ぼす影響</li> <li>9. 患者・家族の理解度</li> <li>10. ボディイメージ <ol style="list-style-type: none"> <li>11. わかりやすい説明</li> <li>12. 患者・家族の話をよく聞く</li> <li>13. 疑問・不安・衝撃などの把握</li> <li>14. 訴えに対し速やかに行動する</li> <li>15. 患者・家族の意見を援助に生かす</li> <li>16. 家族の協力・参加</li> <li>17. 退院後の生活、自己管理への援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 食事・排泄を整える援助</li> <li>2) 創の管理への援助</li> <li>3) 定期受診・緊急受診</li> <li>4) 不安の軽減</li> <li>5) 社会資源の活用</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>						



学習活動	内 容
	III 1. 緊急度、優先度の判断 2. 実施したことや患者、家族の反応 3. 事実に基づいた判断 4. 時宜を得た報告 5. チームでの情報交換 6. チーム間の連携
2. 実践を通して、急性期・回復期の看護の理解を深める。	1. 急性期・回復期の特徴 2. 発達段階、患者、家族の状態 3. 障害受容・危機 4. リハビリテーション 5. 自己管理 6. 社会復帰 7. 保健医療福祉の連携、多職種連携 1) 入院と外来 2) 在宅や地域との連携 3) 社会資源の活用 8. 継続的な看護
成績評価方法	臨地実習の評価要領・成人看護学実習Ⅲ評価基準に準ずる

専門分野Ⅱ－老年看護学

授業科目	老年看護学概論	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 老年期にある対象の特徴とその生活について理解する。 2. 老年期の対象をとりまく社会と看護の役割を理解する。					
回数	学 習 内 容					
14H	1. 老年期の対象 1) ライフステージとしての老年期 2) 加齢とは 3) 老化とは  2. 加齢(老化)に伴う諸機能の変化 1) 身体的機能の変化(生理・運動・感覚機能) <span style="float: right;">演習(高齢者疑似体験)</span> 2) 精神的機能の変化 3) 社会的機能の変化					
15H	3. 老年期の発達と成熟 1) 老年期の生と死 2) 老年期の性 3) 老年期の発達課題  4. 老年期を生きる人々の生活と健康 1) 老年期の生活 2) 老年期の健康の特徴 3) 老年期の生きがい  5. 高齢者をとりまく社会 1) 老年人口の意義 2) 高齢者と家族 (1) 高齢社会における保健医療福祉の動向 (2) 家族形態の変化 (3) 家庭介護の問題 (4) 高齢社会における権利擁護  6. 老年看護の機能と役割 1) 老年看護活動の特性 2) 老年看護活動の場 3) 老年看護の目標、原則					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験・レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)				

専門分野Ⅱ－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅰ (症状・機能障害別看護)	担当教員	土田 昌美 川上 喜久男 中川 由紀	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 老年期にある対象の生活に影響を与える障害を理解する。 2. 老年期にある対象への援助方法を理解する。						
回数	学習内容						
15H	1. 老年期の患者の特徴 2. 高齢者に多い疾患・症状とその看護 1) 視力障害 2) 食欲不振・脱水 3) 痛み（四肢、頸背腰部） 4) かゆみ 5) 便秘 6) 排尿障害 7) 嚥下障害 8) 不眠、うつ状態 3. 治療・処置をうける高齢者の看護 1) 検査と看護ケア 2) 薬物療法と看護ケア 3) 手術療法と看護ケア						
8H	4. 身体可動性障害の高齢者の看護 1) 身体可動性障害を生む要因、原因の把握 2) 生活機能障害の程度と残存機能の評価 3) 廃用症候群予防と援助の基本的視点 5. 社会資源を活用した高齢者の看護 1) 在宅高齢者への看護 2) 保健医療福祉施設における看護 3) 介護家族への看護						
6H	6. 認知症高齢者の看護 1) 認知症のなりたちと症状 2) おもな症状に対する援助の実際 3) 対応の技法						
試験 1 時間							
成績評価方法		筆記試験・レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)					

専門分野Ⅱ－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅱ (日常生活の看護)	担当教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 老年期にある対象への日常生活の援助方法を理解する。 2. 終末期にある老年期の対象に対する援助を理解する。						
回数	学 習 内 容						
3H	1. 日常生活の看護 1) 日常生活看護の基本的な事項 2) コミュニケーションの援助 3) 移動自立への援助 4) 生活リズムへの援助 5) 清潔と衣生活への援助						
6H	6) 食生活への援助		演習 (嚥下障害のある患者の食事介助)				
4H	7) 排泄への援助		演習 (オムツ交換・失禁ケア)				
1H	2. 高齢者の終末期の看護 1) 死の迎えかたに関する意向への理解 2) 苦痛の緩和と安楽への看護 3) 家族の心理の理解と看護						
試験 1 時間							
成績評価方法		筆記試験・レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)					

専門分野Ⅱ－老年看護学

授業科目	老年看護学援助論Ⅲ (事例展開)	担当教員	伊吹 麻紀子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	老年期にある対象の特徴、健康の状態をふまえ、看護過程の展開を通して看護の方法を理解する。						
回数	学習内容						
1H	《事例展開》大腿骨頸部骨折術後で機能訓練を必要とする老年期の患者						
14H	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例展開の学習の視点</li> <li>2. 大腿骨頸部骨折患者の看護の視点</li> <li>3. アセスメント</li> <li>4. 看護上の問題の明確化</li> <li>5. 看護上の問題の優先順位</li> <li>6. 看護計画</li> </ol>						
成績評価方法		レポート、参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患編 (医学書院)					

4) 老年看護学

授業科目	老年看護学実習 I (対象理解・日常生活援助)	担当教員	伊吹 麻紀子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		2年次・必修	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師として臨床経験あり					
学習目的	老年期にある対象の看護を実践するための能力を養う。						
学習目標	1. 老年期にある対象の特徴を理解できる。 2. 健康上の問題を持つ老年期にある対象を理解する。 3. 老年期にある対象とコミュニケーションをはかることができる。 4. 健康上の問題を持つ老年期の対象の特徴をふまえて援助が実施できる。						
学習活動	内容						
1. 老年期にある対象の特徴を理解できる。	I 1. 加齢性変化の観察 1) 身体的状況 2) 認知・精神的状況 2. 個人の違い 1) 加齢性変化の個人差 2) 日常生活動作の個人差 3) 生活背景、生活信条、家族役割による個人差  II 1. 日常生活場面の観察 食事、排泄、清潔行動、衣生活、活動、睡眠、休息、環境など 2. 対象の一日の過ごし方の観察 1) 対象のペース 2) プライバシー保持 3) 集団生活の中での交流・役割 3. 現在の生活に対する思い						
2. 健康上の問題を持つ老年期にある対象を理解する。	I 1. 情報源の活用 2. 系統的観察・直接的観察 3. バイタルサイン測定 4. コミュニケーション技術の活用 5. 意図的な情報収集 1) 患者プロフィール 2) 患者データベース 6. 年齢・性別・医学診断名 7. 感染症・アレルギー・薬剤禁忌 8. 既往歴 9. 身体の変化（人体の構造・機能の視点から） 10. 症状  II 1. 情報源の活用 2. 系統的観察・直接的観察 3. コミュニケーション技術の活用 4. 意図的な情報収集 1) 患者プロフィール 2) 患者データベース 5. 入院前の生活状況、生活習慣 1) 規制された生活に対する反応 2) 入院や疾患に対する反応 3) 生活信条、価値観 4) 家族の役割、機能 5) 家族の健康状態、心理状態、経済状態 6) 面会者と面会の頻度 6. 現在の生活状況 7. 一日の過ごし方						

学習活動	内容
2. 健康上の問題を持つ老年期にある対象を理解する。	<p>Ⅲ.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の疾病をめぐる特徴</li> <li>2. 疾患・治療が対象に与えている影響</li> <li>3. 入院による規制が与えている影響</li> <li>4. 加齢性変化が与えている影響</li> <li>5. 関連因子・危険因子</li> <li>6. 強み</li> <li>7. 健康上の問題・生活上の問題</li> </ol>
3. 老年期にある対象とコミュニケーションをはかることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢性変化が与えている影響 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションを阻害する因子</li> <li>2) 聴力、視力、理解力、記憶力の加齢性変化</li> <li>2. 日常生活援助の場面を活用したコミュニケーション</li> <li>3. 対象を尊重したコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 言葉遣い、態度</li> <li>2) 対象のペース</li> <li>3) プライバシー保持</li> <li>4) 責任ある言動・行動</li> </ol> </li> <li>4. 言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの活用</li> <li>5. プロセスレコードの活用 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の反応の把握</li> <li>2) 自身が対象に与えた影響</li> <li>3) 相互の親密度、距離感、ズレ</li> <li>4) 自身の対人関係の特徴</li> <li>6. 考察したことを次の対応へ活用</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>
4. 健康上の問題を持つ老年期の対象の特徴をふまえて援助が実施できる。	<p>I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の状況把握 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期の身体状況</li> <li>2) 援助に対する思い</li> </ol> </li> <li>2. 目的の設定</li> <li>3. 対象の状況に応じた援助方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 安全・安楽な方法</li> <li>2) 身体や疾患に負担をかけない方法</li> <li>3) 対象の残存機能を維持できる方法</li> <li>4) 対象のやる気が引き出せる方法</li> </ol> </li> </ol> <p>II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画通りの実施が可能か事前確認</li> <li>2. 対象の反応の確認 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 適宜、声を掛けながら実施</li> <li>2) 対象の表情</li> </ol> </li> <li>3. 安全・安楽の厳守 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 危険の予測</li> <li>2) 援助方法の説明</li> <li>3) 対象に協力を得る</li> <li>4) 安楽の確保</li> <li>5) 原理原則に基づく実施</li> </ol> </li> <li>4. 対象の状況に応じた実施</li> </ol> <p>III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施した援助の事実</li> <li>2. 援助中の対象の反応や状態</li> <li>3. 実施した援助の振り返り <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の反応</li> <li>2) 安全安楽</li> <li>3) 老年期の特徴、身体状況</li> <li>4. 振り返りに基づき、援助の目的・計画の変更</li> </ol> </li> </ol> <p>IV</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施した援助の内容、対象の反応</li> <li>2. 正確な内容</li> <li>3. 時宜を得た報告</li> </ol>
成績評価方法	臨地実習の評価要領・老年看護学実習Ⅱ評価規準に準ずる

専門分野Ⅱ—老年看護学

授業科目	老年看護学実習Ⅱ (健康障害時の看護)	担当教員	伊吹 麻紀子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期	3年次・全期		
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目的	老年期にある対象の状況に応じた看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	1. 健康上の問題を持つ老年期の患者や家族の状況を理解し、退院後の生活に向けた援助を実施することができる。 2. 実践を通して、老年期の対象への看護の理解を深めることができる。						
学習活動	内 容						
1. 健康上の問題を持つ老年期の患者や家族の状況を理解し、退院後の生活に向けた援助を実施する。	<p>I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現病歴</li> <li>2. 既往歴</li> <li>3. 治療方針・治療内容</li> <li>4. 発達段階・発達課題 エリクソン、ハヴィガースト</li> <li>5. 身体的変化 恒常性と4つの力の変化、疾病をめぐる特徴</li> <li>6. 心理的变化 ペックの心理的危機</li> <li>7. 病気・治療・入院に対する思い</li> <li>8. 回復への期待、意欲</li> <li>9. 喪失感、依存、あきらめ</li> <li>10. 社会参加の状況</li> <li>11. 家族構成・家族関係</li> <li>12. 家族の思い・サポート力</li> <li>13. 入院前の介護度・介護の状態</li> <li>14. 経済状態</li> <li>15. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>16. 日常生活の規則、生活リズム</li> <li>17. 認知機能の状態</li> </ol> <p>II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活自立状態のアセスメント 高齢者総合的機能評価(CGA)、国際生活機能分類(ICF)</li> <li>2. 自立を妨げる要因の分析 老年症候群、フレイル、サルコペニア、筋力量の減少、低栄養</li> <li>3. 入院に伴う生活変化</li> <li>4. 入院中の環境</li> <li>5. 病状</li> <li>6. 病気・治療・入院に対する思い</li> <li>7. 回復への期待、意欲</li> <li>8. 喪失感、依存、あきらめ</li> <li>9. 家族の思い・サポート力</li> <li>10. 生活習慣、生活リズム</li> <li>11. 認知機能の状態</li> <li>12. コミュニケーション能力の状態</li> <li>13. 家族の思い・サポート力</li> <li>14. 家族構成・家族関係</li> <li>15. 入院前の介護度・介護の状態</li> <li>16. 経済状態</li> <li>17. 生活習慣、趣味、嗜好</li> <li>18. 日常生活の規則、生活リズム</li> <li>19. 今後の生活の場の環境状況</li> </ol> <p>III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢社会の現状</li> <li>2. 高齢社会における保健医療福祉の動向</li> <li>3. 家庭介護の問題</li> <li>4. 高齢者の権利擁護</li> </ol>						
2. 実践を通して、老年期の対象への看護の理解を深める。	<p>I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の健康目標</li> <li>2. 保健医療福祉の連携、多職種連携</li> <li>3. 高齢者の尊厳と人権擁護</li> <li>4. 高齢者や家族を取り巻く人々への対応</li> </ol>						
成績評価方法	臨地実習の評価要領・老年看護学実習Ⅱ評価基準に準ずる						



専門分野Ⅱ－小児看護学

授業科目	小児看護学概論Ⅰ (子どもと社会)	担当教員	単位数	1	時間数	15
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 子どもの特性と子どもをとりまく社会を理解する。 2. 小児看護の特徴と役割を理解する。					
回数	学 習 内 容					
14H	1. 子どもの定義 1) 子どもとは 2) ライフサイクルにおける小児期 3) 小児期の区分  2. 子どもと社会 1) 子どもをとりまく社会の変化 2) 統計からみた子どもの健康 3) 子どもを保護する法律と施策 * 児童福祉法、児童虐待防止法  3. 子どもの権利 1) 児童憲章 2) 児童の権利に関する条約 3) 児童観の変遷  4. 小児看護とは 1) 小児医療・小児看護の変遷 2) 小児看護の対象 3) 小児の特性 4) 小児医療における倫理 5) 小児看護の役割  * 母子保健法、健やか親子21、学校保健、予防接種は健康支援論で学習					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)				
参考文献他		系看 専門Ⅱ 小児看護学(1) 小児看護学概論/小児臨床看護総論 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)				

専門分野Ⅱ－小児看護学

授業科目	小児看護学概論Ⅱ (子どもの成長・発達と看護)	担当教員	西村 洋子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	子どもの成長・発達と健康増進のための子どもと家族への看護について理解する。						
回数	学 習 内 容						
6 H	1. 子どもの成長と発達 1) 成長・発達の原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長・発達の評価						
4 H	2. 子どもの栄養 1) 子どもの栄養の特徴 2) 小児各期の栄養						
1 4 H	3. 小児各期の特徴と養育および看護 1) 新生児の成長・発達と養育および看護 2) 乳児の成長・発達と養育および看護 3) 幼児の成長・発達と日常生活（基本的な生活習慣の確立）、養育および看護 4) 学童の成長・発達と養育および看護 5) 思春期の子どもの成長・発達と看護						
2 H	4. 子どもの事故防止 1) 発達段階における事故の特徴 2) 事故防止						
3 H	5. 子どもの遊びと教育 1) 遊びの意義 2) 遊びの発達 3) 遊びと社会性 4) 教育の意義						
試験 1 時間							
成績評価方法				筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)			
参考文献他				系看 専門Ⅱ小児看護学(1) 小児看護学概論/小児臨床看護総論(医学書院)			

専門分野Ⅱ－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅰ (健康障害と看護)	担当教員	成宮 正朗		単位数	1	時間数	30
			石本 美和子		受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験			必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり						
学習目標	1. 子どもの健康障害について理解する。 2. 健康障害のある子どもと家族の看護について理解する。							
回数	学 習 内 容							
14H	1. 胎内で影響を受けた健康障害 1) 代謝異常 2) 染色体異常 3) 胎芽病 4) 胎児病 5) 骨系統疾患 6) 未熟児 2. 子どもに特徴的な健康障害 1) 消化器 2) 呼吸器 3) 循環器・血液 4) 腎・泌尿器 5) 脳・神経 6) 内分泌・代謝 7) 骨・関節 8) 感覚器 9) 免疫・アレルギー 10) 感染症 11) 悪性新生物 12) 精神障害 13) 事故・外傷	15H	3. 子どもの健康障害と家族 4. 入院が必要な子どもと家族の看護 1) 子どもの入院環境 2) 入院が及ぼす子ども・家族への影響 3) 入院時の看護 4) 入院中の生活援助 5) 退院時の看護 5. 小児病棟の管理 1) 小児病棟の環境 2) 小児病棟に必要な規則 3) 小児病棟における看護師の役割 6. 外来における子どもと家族の看護 1) 外来を訪れる子ども 2) 診察・処置を受ける子どもの看護 7. 健康障害の経過と子どもの看護 1) 慢性期 2) 急性期 3) 周手術期 4) 終末期 8. 未熟児の看護 (保育器の取り扱い含む) 9. 子どもの虐待と看護 10. 心身障害のある子どもと家族の看護 1) 心身障害の種類と定義 2) 心身障害のある子どもをとりまく環境 11. 小児看護に必要な技術 1) 点滴固定 (演習) 2) 身体測定 (演習) 3) バイタルサイン測定 (演習) 4) 検査時の介助(採尿、採血) (演習) 5) 抑制	試験1時間				
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他		系看 専門Ⅱ 小児看護学 (1) 小児看護学概論／小児臨床看護論 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 小児看護学 (2) 小児臨床看護各論 (医学書院)						

専門分野Ⅱ－小児看護学

授業科目	小児看護学援助論Ⅱ (状況別看護、事例展開)	担当教員	森岡 真希	単位数	1	時間数	30
			大久保 順子	受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 健康障害の状況に応じた子どもと家族の看護について理解する。 2. 看護過程の展開を通して小児期にある対象の看護の方法を理解する。						
回数	学 習 内 容						
14H	1. 症状にともなう子どもと家族の看護 1) 発熱 2) 呼吸困難 3) 嘔吐 4) 下痢 5) 脱水 6) けいれん 7) 発疹 8) 痛み  2. 治療・処置を受ける子どもと家族の看護 1) 活動制限 2) 隔離 3) 食事制限 4) 薬物療法・検査・処置  3. 健康障害のある子どもの発達段階別看護 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期						
15H	4. 入院中の子どもの遊び 1) 遊びの目的 2) 遊びの実際  5. 《事例展開》 幼児期で呼吸器疾患をもつ患児の看護 肺炎に罹患した急性期の3歳女兒の看護過程 1) アセスメント 2) 診断 3) 計画 4) 実施 5) 評価						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、事例課題 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 小児看護学(1) 小児看護学概論／小児臨床看護総論 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 (医学書院)					

専門分野Ⅱ—小児看護学

授業科目	小児看護学実習	担当教員	西村 洋子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	小児とその家族を理解し、成長・発達、発達段階、健康の段階に応じた看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	<p>&lt;保育園実習&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を理解し、子どもの特徴を捉えることができる。</li> <li>2. 子どもの発達段階に応じた日常生活へのかかわり方、家族とのかかわり方が理解できる。</li> </ol> <p>&lt;病棟実習&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達と健康状態をとらえることができる。</li> <li>2. 小児の状況に応じた看護が実践できる。</li> <li>3. 小児看護の特徴を理解できる。</li> </ol>						
学習活動		内容					
1. レクリエーションや生活の援助に参加し、小児の成長・発達に合わせたかかわり方を考える。		1. 発達区分 2. 基本的な生活習慣の獲得 3. 愛着形成 4. 認知機能 5. 情緒・社会性機能 6. コミュニケーション機能 7. 生理的機能		8. 運動機能 9. 形態的機能 10. ピアジェの認知発達理論 11. エリクソンの自我発達理論 12. ボウルビイの愛着理論 13. 患児・家族とのかかわり方 14. 家族との連携			
2. 患児への援助を通して小児の特徴と健康問題をとらえて必要な看護を考える。		1. 患児の状態・状況 2. 観察技術 3. 情報源の活用 4. 情報収集手段の選択・場面の選択 5. 発達段階		6. 発達課題 7. ピアジェの認知発達理論 8. エリクソンの自我発達理論 9. ボウルビイの愛着理論 10. 基本的な生活習慣の獲得 11. 病態関連図			
3. 患児や家族とコミュニケーションをとりながら、健康障害に応じた看護を実践する。		1. 子どもの権利 2. 遊び 3. おもちゃの選択 4. 生活援助 5. 処置 6. 声掛け 7. プロセスレコードの振り返りの視点 8. 病棟アメニティ		9. 病棟環境 10. ベッド周囲の環境 11. 転倒転落 12. 家族の協力 13. 季節の行事 14. 学習環境			
4. 体験したことをもとに小児看護の理解を深める。		1. 小児の入院 2. 診療の補助 3. 危険防止 4. 感染防止 5. 事故防止 6. 継続看護 7. 生命維持		8. 愛着形成 9. 異常の早期発見 10. 家族看護 11. 子どもの権利 12. 成長発達の促進 13. 回復の促進			
成績評価方法		臨地実習の評価要領・小児看護学実習評価基準に準ずる					

専門分野Ⅱ－母性看護学

授業科目	母性看護学概論	担当教員	八木 美智子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性の概念、母性看護の特徴を理解する。</li> <li>2. 母性保健の現状と動向、母性看護の役割を理解する。</li> </ol>						
回数	学 習 内 容						
14H	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性とは</li> <li>2) 母子関係と家族発達</li> <li>3) セクシュアリティ</li> </ol> </li> <li>2. 女性のライフサイクルと母性看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化</li> <li>2) リプロダクティブヘルス/ライツ</li> <li>3) ヘルスプロモーション</li> <li>4) 女性のライフサイクルと家族</li> </ol> </li> <li>3. 母性看護の変遷と対象を取り巻く環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性看護の歴史的変遷と現状</li> <li>2) 母性看護の対象を取り巻く環境</li> </ol> </li> <li>4. 母子保健統計の動向、母性看護に関する組織・法律・施策 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母子保健統計の動向</li> <li>2) 母子の健康と法律</li> <li>3) 就労女性と法律</li> <li>4) 母子保健に関する施策</li> </ol> </li> <li>5. 母性看護のあり方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性看護とは</li> <li>2) 母性看護における倫理</li> <li>3) 母性看護における安全・事故予防</li> </ol> </li> </ol>						
試験 1 時間							
成績評価方法	<p style="text-align: center;">レポート、筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)</p>						
参考文献他	<p>系看 専門Ⅱ 母性看護学 (1) 母性看護学概論 (医学書院)</p> <p>国民衛生の動向</p>						

専門分野Ⅱ－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅰ (妊娠期の看護)	担当教員	三ツ井 久美	単位数	1	時間数	30
			八木 美智子	受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 女性のライフステージ各期における看護を理解する。 2. 妊娠期の看護を理解する。						
回数	学習内容						
14H	1. 女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期の健康と看護 3) 成熟期の健康と看護 4) 更年期の健康と看護  2. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 人工妊娠中絶と看護 4) 性暴力を受けた女性に対する看護 5) 児童虐待と看護						
15H	3. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特徴 2) 妊娠期の心理・社会的特徴 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族の看護 5) 外来・病棟における看護  4. 妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠高血圧症候群 4) 妊娠持続期間の異常 5) 子宮外妊娠						
試験1時間							
成績評価方法		レポート、筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 成人看護学(9) 女性生殖器(医学書院) 系看 専門Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護学概論(医学書院) 系看 専門Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論(医学書院)					

専門分野Ⅱ－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅱ (分娩・産褥期、 新生児の看護)	担当教員	東野 千佳 森 みち子 上野 美保	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	1. 分娩・産褥及び新生児期の看護を理解する。						
回数	学 習 内 容						
10H	1. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 5) 分娩期の看護の実際  2. 分娩の異常と看護 1) 産道・娩出力の異常 2) 胎児・付属物の異常 3) 胎児機能不全 4) 分娩時異常出血 5) 産科的処置と産科手術						
10H	3. 産褥期における看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護 5) 帝王切開術後の看護  4. 産褥の異常と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 乳房トラブル 4) 母子分離時の褥婦の看護 5) 児を亡くした褥婦・家族への看護						
9H	5. 新生児期における看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護 (新生児の観察 沐浴) (演習)  6. 新生児の異常と看護 1) 新生児仮死 2) 低出生体重児 3) 高ビリルビン血症						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 専門Ⅱ 母性看護学 (2) 母性看護学各論 (医学書院)						



専門分野Ⅱ－母性看護学

授業科目	母性看護学援助論Ⅲ (事例展開)	担当教員	八木 美智子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	看護過程の展開を通し、母性の対象の特徴を踏まえた看護方法を理解する。						
回数	学 習 内 容						
14H	<p>《事例展開》          初産婦 : 正常妊娠・分娩・産褥経過          新生児 : 正常経過</p> <p>1. 母性看護学における事例展開          1) ウェルネス看護診断          2) 母性看護学における事例展開の学習の視点          (1) 妊娠、分娩、産褥の生理的变化          (2) 新生児の生理的变化          (3) 母子相互作用          (4) 家族および社会のサポート体制          3) 事例紹介          4) 情報の収集と整理          (1) 患者プロフィール          (2) 妊娠経過記録          (3) 分娩のまとめ          (4) 新生児経過記録          (5) データーベース          2. アセスメント          1) 整理          2) 分析          3) 統合・照合          3. 問題の明確化          1) 看護上の問題 (看護診断)          2) 看護上の問題 (看護診断) の優先順位          4. 看護計画立案          1) 看護計画          (1) 目標の設定          (2) 計画 (OP・TP・EP)          5. 帝王切開を受けた褥婦の看護</p>						
試験1時間							
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)					
参考文献他		系看 専門Ⅱ 母性看護学 (1) 母性看護学概論 (医学書院) 系看 専門Ⅱ 母性看護学 (2) 母性看護学各論 (医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版)					

## 専門分野Ⅱ—母性看護学

授業科目	母性看護学実習	担当教員	八木美智子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	妊娠・分娩・産褥各期にある対象及び新生児の特徴を理解し、正常な経過にむけての看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の生理的変化と看護を理解する</li> <li>2. 産婦の分娩経過と看護を理解する</li> <li>3. 褥婦の看護が実践できる</li> <li>4. 新生児の看護が実践できる</li> <li>5. 母性看護における継続看護を理解する</li> <li>6. 自己の母性観・父性観及び看護観を深めることができる</li> </ol>						
学習活動			内容				
1-1.妊婦の健診に付き添い、妊婦健診の実際を知る。			1. 妊娠週数に伴う妊婦の生理的変化と検査(体重、血圧、尿検査、子宮底長、腹囲、胎位、超音波所見(CRL・BPD・FL・EFWL)、内診所見、血液検査、臍分泌物検査)				
1-2.必要な方法を用いて受け持ち褥婦の妊娠経過を知る。			2. 妊娠経過の正常・異常(母体・胎児の経過) 3. 保健指導(体重増加、妊娠高血圧症候群、貧血等) 4. 妊娠経過に伴う心理・社会的変化				
2-1.分娩見学や分娩体験、カンファレンスに参加する。			1. 分娩進行と胎児の状態(子宮口開大、陣痛の間欠・発作時間、胎児心音)				
2-2.必要な方法を用いて受け持ち褥婦の分娩経過を知る。			2. 分娩進行を促すための援助(体位、排泄、活動、休息) 3. 陣痛や苦痛を和らげるための援助(補助動作、マッサージ、呼吸法、体位、環境、心理面) 4. 日常生活への援助(食事、休息、清潔) 5. 分娩の正常・異常(分娩経過、分娩後の母体、胎児(新生児)、胎児付属物) 6. 産婦の心理的変化				
3-1.全身復古、子宮復古を促進する。			1. 既往妊娠、分娩、産褥歴 2. 退行性変化(子宮、悪露の変化、全身の変化) 3. 進行性変化(乳房の変化、乳汁分泌の経過) 4. 退行性変化・進行性変化に影響する要因(妊娠経過、分娩経過、ホルモンの変化、栄養、排泄、活動、睡眠・休息、自己概念、新生児の状態)				
3-2.乳汁分泌、授乳行動を促進する。			5. 家族構成、退院後の環境、サポート体制 6. 社会資源、諸制度の活用 7. 褥婦の認識と反応 8. 育児技術習得状況、愛着形成と影響因子 9. 褥婦のありのまま、強み(できているところ、よいところ)に着目した目標および計画(異常を正常に、正常をより正常に経過させる、自己管理)				
3-3.沐浴、保健指導の場に参加し、母子関係の成立を促進する。			10. 個別性のある具体策 11. 子宮復古促進への援助 12. 乳汁分泌促進への援助 13. 母子関係を成立させるための援助 14. 安全、安楽に配慮した援助 15. プライバシーに配慮した援助 16. 実施前の褥婦、新生児の状況確認 17. 実施のための必要な調整、判断 18. 実施した看護、対象の反応、目標に照らし合わせた評価 19. 必要な計画の修正、追加 20. 事実に基づいた判断、時宜を得た報告				

4.胎外環境への適応を助ける。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. V/S、体重の増減、哺乳量・内容、吸啜力、排泄(回数、性状)、黄疸、皮膚の状態、臍、活気、反射 生後日数、経時的变化</li> <li>2. 安全・安楽、原理・原則をふまえた実施(V/S測定、沐浴、おむつ交換、授乳、環境調整、感染予防)</li> <li>3. 実施した内容、新生児の反応に基づいた正常・異常の判断、時宜を得た報告</li> </ol>
5.妊婦健診、助産外来、母親教室、2週間健診等に参加し、母性看護における継続看護についてカンファレンスで話し合う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦健診、母親教室、助産師外来</li> <li>2. 分娩(入院時)</li> <li>3. 電話訪問、2週間健診、1ヵ月健診、退院後の生活環境・サポート体制</li> <li>4. 社会資源</li> </ol>
6.対象の思い、褥婦や家族に対するスタッフの関わりや自己の関わりについて振り返る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩見学</li> <li>2. 受け持ちケースとの関わり</li> <li>3. スタッフの関わり</li> </ol>
成績評価方法	臨地実習の評価要領および母性看護学実習評価基準に準ずる

専門分野Ⅱ－精神看護学

授業科目	精神看護学概論Ⅰ (心の健康)	担当教員	単位数	1	時間数	15
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 人間の心の構造と機能について理解する。 2. 心の健康を保持増進するための看護について理解する。					
回数	学習内容					
2H	1. 精神看護の対象と役割 1) 精神看護の目的 2) 精神看護の対象 3) 精神看護の役割 4) 精神看護の動向と課題					
2H	2. 心の健康とは 1) 心の健康とその考え方 2) 心の健康維持					
4H	3. 心の発達・人格の成熟 1) エリクソンの発達論 2) 自我の防衛機制 3) 欲求と適応					
2H	4. 人間の性と健康 1) フロイトの発達論 2) 人間のライフサイクルと性の発達					
4H	5. 治療的関係形成 1) 援助的自己活用 2) コミュニケーションスキル 3) 患者－看護師関係の発展過程					
試験1時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)				
参考文献他		ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 (メディカ出版)				

専門分野Ⅱ－精神看護学

授業科目	精神看護学概論Ⅱ (危機・保健活動)	担当教員	単位数	1	時間数	30
			受講年次・時期		1年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修	
		看護師としての臨床経験あり				
学習目標	1. 人間の成長発達のプロセスや社会状況の中で生じる危機に対する看護について理解する。 2. 精神保健医療福祉の歴史と法制度の変遷について理解する。 3. 精神に障害をもつ患者への地域精神保健活動について理解する。					
回数	学 習 内 容					
15H	1. 危機理論とストレス理論 1) 危機理論 2) ストレス理論 2. 環境における危機 1) 家庭 2) 学校 3) 職場 4) 地域社会 3. ストレス状況における危機 1) 身体的疾患をもつ患者の心の健康 2) 患者家族の心の健康 3) 災害における心の健康 4) ストレスと心の健康					
14H	4. 精神保健医療福祉の歴史と現状 1) 精神保健医療福祉の歴史 2) 精神保健医療福祉の法制度 3) 精神保健医療福祉領域における倫理的課題 5. 地域精神保健活動 1) 精神障害者のケアマネジメント 2) セルフヘルプとソーシャルサポート 3) 地域精神保健の今後の課題					
試験 1 時間						
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)				
参考文献他		ナーシング・グラフィカ	精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版)			
		ナーシング・グラフィカ	精神看護学②精神障害と看護の実践 (メディカ出版)			

専門分野Ⅱ－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅰ (健康障害と看護)	担当教員	清水 芳樹 池田 仁 山本 佳樹 柴田 隆嗣	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 精神症状のとらえ方と主な疾患、検査、治療について理解できる。 2. 精神に障害をもつ対象に対する看護を理解する。						
回数	学 習 内 容						
15H	1. 精神症状と精神疾患 1) 精神疾患総論 2) 自閉症スペクトラム障害 3) 統合失調症 4) 抑うつ障害と双極性障害 5) 不安障害 6) 強迫性障害 7) ストレス因関連障害 8) 解離性障害 9) 身体症状症および関連症 10) 摂食障害 11) 睡眠－覚醒障害 12) 物質関連障害 13) 神経認知障害 14) パーソナリティ障害 15) 身体疾患と精神症状  2. 検査 1) 心理検査 2) 知能検査 3) 性格検査 4) 脳波検査  3. 治療 1) 薬物療法 2) 精神療法 3) リハビリテーション療法 4) 電気けいれん療法 (ECT)	14H	4. 主要症状と状態の看護 1) 幻覚妄想状態にある患者の看護 2) 拒絶状態にある患者の看護 3) 自閉傾向にある患者の看護 4) 自傷、自殺企図のある患者の看護 5) 不安、不眠状態にある患者の看護 6) 躁状態にある患者の看護 7) 抑うつ状態にある患者の看護  5. 検査、治療を受ける患者の看護  6. 患者理解とコミュニケーション  7. 精神科看護師の役割と機能				
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 (メディカ出版)						

専門分野Ⅱ－精神看護学

授業科目	精神看護学援助論Ⅱ (事例展開)	担当教員	堤 国夫	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		3年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	看護過程の展開を通して精神に障害のある対象の看護の方法を理解する。						
回数	学 習 内 容						
14H	<p>《事例展開》統合失調症で無為自閉傾向にある患者 55歳、女性、慢性期にある統合失調症の患者の看護過程</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神事例展開の学習の視点</li> <li>2. 統合失調症患者の看護の視点</li> <li>3. アセスメント</li> <li>4. 看護上の問題の明確化</li> <li>5. 看護上の問題の優先順位</li> <li>6. 看護計画</li> </ol>						
試験 1 時間							
成績評価方法	課題、終了時試験 (授業科目の評価要領、終了時試験実施要領参照)						
参考文献他	ナーシング・グラフィカ 精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 精神看護学②精神障害と看護の実践 (メディカ出版)						

## 専門分野Ⅱ—精神看護学

授業科目	精神看護学実習	担当教員	堤 国夫	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次	全期
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別		必修	
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	精神障害のある対象および家族を理解し、精神の健康回復および社会復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障害のある対象の身体的、心理・社会的特徴が理解できる。</li> <li>2. 精神に障害のある対象の看護ができる。</li> <li>3. 治療環境としての自己活用の意味を理解し、対象と関わることができる。</li> <li>4. 治療と入院環境、継続看護について理解できる。</li> </ol>						
学習活動				内 容			
1. 生育歴や生活歴を通して精神に障害を持つ対象を知る。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現病歴</li> <li>2. 生育歴</li> <li>3. 入院前の生活状況・生活習慣</li> <li>4. 家族構成と家族歴</li> <li>5. 入院から受け持つまでの経過</li> <li>6. 家族状況・関係</li> <li>7. 病気による精神機能の変化               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現在の精神症状</li> <li>2) 現実検討力、病識</li> </ol> </li> <li>8. 精神科における治療（薬物・精神・社会）</li> <li>9. 治療上の規制・制限制限</li> <li>10. 退院後の生活状況</li> <li>11. 経済的影響</li> <li>12. セルフケア能力</li> <li>13. コミュニケーション能力、疎通性の障害</li> <li>14. リハビリテーション内容</li> <li>15. サポート体制</li> </ol>			
2. 作業療法や、病棟行事を共に過ごし、患者の状況に応じた日常生活援助を行う。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケア看護モデル</li> <li>2. レジリエンス</li> <li>3. アドボカシー</li> <li>4. 社会的相互作用               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対人関係の維持、拡大</li> <li>2) 信頼関係を結ぶことの意味</li> </ol> </li> <li>5. コーピング</li> <li>6. ADL IADL</li> <li>7. 発達段階の特徴</li> <li>9. 生活習慣・生活様式</li> <li>10. 治療的コミュニケーションの活用</li> <li>11. 言語的メッセージと非言語的メッセージ</li> <li>12. 自分の感じた気持ちの言語化</li> <li>13. 安全・安楽・経済性</li> <li>14. 創意工夫</li> <li>15. 適切な資源の活用</li> <li>16. 実施したことや対象の反応</li> <li>17. 判断</li> <li>18. 時宜を得た報告</li> </ol>			
3. 患者との関わりを通して、患者-看護師関係について振り返る。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者-看護師関係               <ul style="list-style-type: none"> <li>ペプロウ、トラベルビー</li> </ul> </li> <li>2. プロセスレコード               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者に生じている感情の変化</li> <li>2) 自己に生じている感情の変化</li> <li>3) 自分の感じた気持ちの言語化</li> </ol> </li> <li>3. 家族関係・生活背景との関連</li> <li>4. 危機的状況の対処としての反応</li> <li>5. 対人関係能力</li> <li>6. 治療的コミュニケーション</li> </ol>			



学習活動	内 容
4. 病院・病棟見学を通して、精神科の特徴や患者のおかれている現状を知る。	1. 精神医療の歴史の変遷 2. 精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護 3. 精神科病棟の特殊性 1) 病棟の構造の特徴 閉鎖病棟・施錠・保護室 2) 一般病棟との違いとその理由 3) 安全管理の特殊性 危険物管理 構造上の工夫 人員確認 行動制限の周知 包括的暴力防止プログラム (CVPPP) 緊急時のシステム
	4) 入院患者の概要 年齢・性別・疾患・入院形態・在院日数 5) 病棟の日課 4. 障害者総合支援法 5. その他関連法規 6. 継続看護 7. チーム医療 8. 社会資源とその活用の実際 法的資源・物的資源・人的資源 9. アドボカシー 10. リカバリー
5. 退院カンファレンスへの参加、グループホームの見学などを通して、対象に必要な多職種連携や社会資源について理解する。	1. 精神保健福祉法 入院形態・行動制限・人権擁護 2. 障害者総合支援法 3. 継続看護 4. 地域包括支援 5. 成年後見人制度 6. リカバリー
成績評価方法	臨地実習の評価要領・精神看護学実習評価基準に準ずる

# 統 合 分 野

統合分野－在宅看護論

授業科目	在宅看護概論	担当教員	大脇 和子	単位数	1	時間数	30
			浦山 和美	受講年次・時期		2年次・前期	
授業形式	講義	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 在宅看護の対象を理解する。 2. 在宅における看護の特徴と役割について理解する。						
回数	学習内容						
19H	1. 在宅看護の概念 1) 在宅看護とは 2) 在宅看護の位置づけ 3) 地域看護と在宅看護の関連 2. 在宅看護の歴史と現状 1) 日本の在宅看護の変遷 2) 在宅看護を必要とする社会背景 3. 在宅看護を支える制度 1) 医療保険の概要 2) 介護保険の概要 4. 在宅看護の対象者 1) 対象者の特徴 5. 在宅看護の対象者としての家族 1) 家族の特徴 2) 家族を理解するための基礎的理論 6. 在宅看護における権利保障 7. 在宅看護とケアマネジメント 1) ケアマネジメントの概念と機能 2) 関係機関と関係職種との連携 3) 地域包括ケアシステム						
10H	8. 在宅看護を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴 2) 訪問看護ステーションの機能と役割 3) 訪問看護の実践 4) 訪問看護の記録 9. 在宅看護の関係機関と関係職種 1) 在宅看護にかかわる法規 2) 関係機関と関係職種 3) 在宅看護に関する経済的側面 4) 訪問看護師の医療行為 5) 関係職種と連携するための技術						
試験1H							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)					
参考文献他		テキスト:医学書院 系看 統合分野 在宅看護論					

統合分野－在宅看護論

授業科目	在宅看護援助論 I (生活援助技術)	担当教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	在宅における看護実践のための態度および生活援助技術を理解する。						
回数	学習内容						
14H	<p>1. 在宅看護における看護者に必要な態度</p> <p>1) 訪問看護における留意点</p> <p>2) 訪問マナーの基本</p> <p>3) 訪問マナーの実際 (演習 2 H)</p> <p>2. 在宅看護における生活援助技術</p> <p>1) 在宅看護における生活環境</p> <p>(1) 住宅改修</p> <p>2) 移動の援助</p> <p>(1) 日常生活動作のアセスメント</p> <p>(2) 移動補助用具と自立への工夫</p> <p>3) 食事の援助</p> <p>(1) 食生活のアセスメント</p> <p>(2) 食事環境の調整</p> <p>4) 排泄の援助</p> <p>(1) 排泄機能のアセスメント</p> <p>(2) 排泄援助機器・ケア用品</p> <p>5) 清潔の援助</p> <p>(1) 清潔のアセスメント</p> <p>(2) 居宅での入浴介助・陰部洗浄・洗髪 (演習 3 H)</p>						
試験 1 H							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)						
参考文献他	テキスト：医学書院 系看 統合分野 在宅看護論						

統合分野－在宅看護論

授業科目	在宅看護援助論Ⅱ (状況別看護)	担当教員	北川 理恵 垣見 留美子 西村 紀子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	1. 在宅における医療処置に伴う援助技術について理解する。 2. 在宅における症状、状態別の看護について理解する。						
回数	学習内容						
13H	1. 医療処置に伴う援助技術 1) 在宅経管栄養法 (HEN) (演習3H) 2) 在宅中心静脈栄養法 (HPN) 3) 服薬管理 4) 膀胱留置カテーテルの管理 5) 在宅酸素療法 (HOT)						
10H	6) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 7) 吸引 8) 気管カニューレ 9) 在宅人工呼吸療法 (HMV) 10) 褥瘡						
6H	2. 在宅療養者の症状・状態別の看護 1) 難病 (1) ALS (2) パーキンソン病 2) 感染症 (1) 在宅におけるスタンダードプリコーション (2) MRSA (3) 疥癬 3) 在宅ターミナルケア						
試験1H							
成績評価方法		筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)					
参考文献他		テキスト：医学書院 系看 統合分野 在宅看護論					

統合分野－在宅看護論

授業科目	在宅看護援助論Ⅲ (事例展開)	担当教員	佐々木 久栄	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期		3年次・前期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	看護過程の展開を通して在宅で療養する対象の看護の方法を理解する。						
回数	学習内容						
14H	≪事例展開≫ パーキンソン病を患う在宅療養者と家族の看護 1. 在宅事例展開の学習の視点 事例紹介 2. パーキンソン病療養者の看護の視点 3. アセスメント 4. 看護上の問題の明確化 5. 社会資源の活用とそれぞれの連携（生活関連図） 6. 看護計画・実施						
試験1H							
成績評価方法		筆記試験、レポート (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領)					
参考文献他		テキスト：医学書院 系看 統合分野 在宅看護論					

統合分野－在宅看護論

授業科目	在宅看護論実習	担当教員	佐々木 久栄	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・全期	
授業形式	臨地実習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目的	1.地域における健康管理を理解する。 2.在宅で生活する療養者とその家族を理解し、在宅看護が実践できる能力を養う。						
学習目標	1. 地域の人々の健康管理がどのように行われているかを理解できる。 2. 在宅療養者と家族の健康状態や生活状況が理解できる。 3. 在宅療養者と家族に必要な援助の一部が実施できる。 4. 在宅療養者と家族に必要な社会資源の活用と多職種との連携が理解できる。 5. 在宅看護における看護職の果たす役割が理解できる。						
学習活動		内容					
1. 地域の事業を通して地域の人々に対する健康管理について知る。		1. 地域保健法 2. 地域保健の対象 3. 地域保健活動の法的根拠 4. 市町村保健センターの役割と機能 5. 地域包括支援センターの役割と機能 6. 市町村保健センター事業に参加 1) 健康相談 2) 保健指導 3) 健康教室 4) 健康診査 7. 地域包括支援センター事業に参加 1) 地域支援事業 (1) 介護予防事業 (2) 包括支援事業 (3) 任意事業					
2. 訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族が必要な支援を受けながら生活している状況を知る。		1. 現病歴 2. 健康状態 3. 身体の状況・ADL 4. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準 5. 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 6. 訪問看護指示書内容 7. 訪問看護計画書内容 8. ケアプラン内容 9. 生活歴・生活習慣・IADL 10. 生活者の視点 11. 自立・自律支援 12. その人らしさ・QOL 13. 家族構成・家族のサポート体制 14. 介護度・介護の状況・介護力 15. 介護者の健康状態・生活状況 16. 家族の地域・家庭内における役割 17. 療養・介護指導 18. 療養者の意向・思い 19. 介護者の意向・思い 20. 住環境・地域環境 21. 社会資源の活用状況					

学習活動	内容
3. 訪問看護活動に参加し、在宅療養者と家族に対する支援の方法を知る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者と家族に対する援助の方法</li> <li>2. 在宅療養者と家族に対する援助の目的の設定</li> <li>3. 生活リズムに合わせた援助の工夫</li> <li>4. 安全・安楽・自立性</li> <li>5. 家庭内にある物品の活用・創意工夫・経済性</li> <li>6. 在宅療養者と家族の希望</li> <li>7. 家族の介護力</li> <li>8. 実施のための必要な調整・判断</li> <li>9. 生活様式・生活習慣の尊重</li> <li>10. 共感的・受容的態度</li> <li>11. 在宅療養者、家族の意向・思い</li> <li>12. 権利擁護</li> <li>13. 訪問のマナー・身だしなみ・挨拶・言葉遣い</li> </ol>
4. 訪問看護活動や多職種が連携する場に参加し、対象に必要な社会資源と多職種連携について知る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護にかかわる法令</li> <li>2. 訪問看護制度</li> <li>3. 訪問看護サービスの提供方法と提供内容</li> <li>4. 社会資源の活用状況</li> <li>5. 在宅療養に関係する職種と関係機関</li> <li>6. 関係機関との連絡方法</li> <li>7. 継続看護</li> <li>8. 住宅改修・福祉用具の活用</li> </ol>
5. 訪問看護ステーションでの実習を通して在宅看護の特徴と看護師の役割を知る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションのオリエンテーションに参加</li> <li>2. 施設内看護と在宅看護の特徴と違い</li> <li>3. 施設内看護と在宅看護の連携方法</li> <li>4. 多職種連携</li> <li>5. 継続看護</li> <li>6. 自立・自律支援</li> <li>7. 在宅療養者と家族の自己決定支援</li> <li>8. その人らしさ・QOL</li> </ol>
成績評価方法	臨地実習の評価要領、在宅看護論実習評価基準に準ずる。



統合分野－看護の統合と実践

授業科目	看護管理	担当教員	高野洋子 上村千馨子 弓削悦子 佐々木久栄	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期	3年次・前期		
授業形式	講義	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別	必修		
学習目標	<p>1. 国際社会における保健医療福祉の実情を知り、諸外国との協働について理解する。</p> <p>2. 看護の法的基盤や諸制度について学習し、看護のマネジメントについて理解する。</p>						
回数	学 習 内 容						
4H	<p>1. 世界の健康問題と看護</p> <p>2. 国際協力のしくみ</p>						
6H	<p>3. 看護の動向</p> <p>1) 看護制度</p> <p>2) 看護行政</p> <p>3) 看護職の育成</p>						
19H	<p>4. 看護とマネジメント</p> <p>1) 看護管理、マネジメントとは</p> <p>2) 看護ケアのマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の権利</li> <li>・安全管理</li> <li>・他職種との連携・協働</li> <li>・日常業務のマネジメント</li> </ul> <p>3) 看護サービスのマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の組織化</li> <li>・看護単位の機能と特徴</li> <li>・看護ケア提供システム</li> <li>・人材、施設、物品、情報のマネジメント</li> <li>・組織におけるリスクマネジメント</li> <li>・サービスの評価</li> </ul> <p>4) マネジメントに必要な知識と技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップとマネージメント</li> <li>・組織の調整</li> <li>・組織と個人</li> </ul>						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	<p>系看 統合分野 看護の統合と実践 (1) 看護管理 (医学書院)</p> <p>系看 統合分野 看護の統合と実践 (3) 災害看護学・国際看護学 (医学書院)</p>						

統合分野－看護の統合と実践

授業科目	医療安全	担当教員	高橋 ひろ好 大久保 順子	単位数	1	時間数	15
				受講年次・時期	2年次・後期		
授業形式	講義・演習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目標	<p>1. 看護と医療安全について理解する。</p> <p>2. 看護における事故が自らに起こる問題であることを認識し、その予防方法について理解する。</p>						
回数	学 習 内 容						
4H 6H 4H	<p>1. 医療安全の意義</p> <p>2. 看護事故の構造と事故防止の考え方</p> <p>3. 診療の補助業務に伴う事故防止</p> <p>4. 療養上の世話における事故防止</p> <p>5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因</p> <p>6. 医療安全とコミュニケーション</p> <p>7. 組織的な安全管理体制への取り組みと国の医療安全対策</p> <p>8. 事例によるシミュレーション体験とリフレクション（演習）</p>						
試験 1 時間							
成績評価方法	レポート・筆記試験 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 統合分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 (医学書院)						

統合分野－看護の統合と実践

授業科目	災害看護	担当教員	富岡 康弘	単位数	1	時間数	15
			野上 幸代	受講年次・時期		2年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<p>1. 災害看護活動が行える基礎的知識を理解する。</p> <p>2. 救命救急処置について理解し、実践できる基礎的能力を習得する。</p>						
回数	学 習 内 容						
7H	1. 災害医療の基礎知識						
	2. 災害看護の基礎知識						
	3. 災害サイクルに応じた看護活動						
	4. 被災者特性に応じた災害看護						
	5. 災害とこころのケア						
5H	6. 災害看護活動の実際（演習、学外災害訓練参加）						
2H	7. 救命救急処置技術（演習）						
	1) 意識レベルの把握						
	2) 気道確保						
	3) 人工呼吸						
	4) 胸骨圧迫						
	5) AEDによる除細動						
	6) 止血法						
試験1時間							
成績評価方法	筆記試験・レポート・参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)						
参考文献他	系看 統合分野 看護の統合と実践 (3) 災害看護学・国際看護学 (医学書院)						

統合分野－看護の統合実践

授業科目	臨床看護実践	担当教員	大久保 順子	単位数	1	時間数	30
				受講年次・時期		3年次・後期	
授業形式	講義・演習	実務経験		必修・選択別	必修		
		看護師としての臨床経験あり					
学習目標	<p>1. 複数の患者の状況に応じて看護の優先順位を考え、実践し、評価できる基礎的な能力を習得する。</p> <p>2. 自己の技術の評価ができる基礎的な能力を習得する。</p>						
回数	学 習 内 容						
22H	<p>1. 複数患者の事例展開（演習）</p> <p>1) 看護計画の立案</p> <p>2) 優先順位の判断と行動スケジュール立案</p> <p>3) 看護計画に沿った実践・評価</p> <p>4) 状況に応じた計画の変更と実践・評価</p>						
8H	<p>2. 技術の評価（講義）</p> <p>3. 技術の到達度評価（演習）</p> <p>1) 自己の技術到達度評価</p> <p>2) 事例に基づいた応用技術の実践</p> <p>3) 技術の自己評価、他者評価</p>						
成績評価方法		レポート、参加状況 (授業科目の評価要領、終了時試験の実施要領参照)					
参考文献他		各分野の参考文献					

授業科目	統合実習	担当教員	大久保 順子	単位数	2	時間数	90
				受講年次・時期		3年次・後期	
授業形式	臨地実習	実務経験 看護師としての臨床経験あり		必修・選択別		必修	
学習目的	看護チームの一員の体験、複数患者の受け持ちを通して、看護実践力を養う。 看護実践を通して、専門職としての役割と責任を理解する。						
学習目標	1. 複数の患者を受け持ち、看護の優先順位、時間管理、安全を考慮した看護が実施できる。 2. 看護チームの一員として行動し、専門職としての役割と責任を知る。 3. 申し送りに参加して、患者の24時間の看護の連携を知る。						
学習活動				内 容			
1. 看護師の指導・助言のもと、複数（2名）患者の看護を実践する。				1. 複数患者(2名)の情報収集 1) 医学診断名 2) 病名告知の有無・内容 3) 看護上の問題・看護計画全体の把握 4) 経過別 5) 治療内容 6) 指示内容 7) 検査 8) ADL 9) 既往歴 10) 家族構成 2. 行動計画 1) 行動スケジュールの立案 2) 優先順位の判断 3) 予定時間設定の根拠 4) 行動スケジュールの評価 5) 予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整 3. 実施 1) 患者の状況に合わせた援助と実施の判断 2) 病棟の看護計画における援助内容の確認 3) 受け持ち患者に必要な援助の実施 4) 適切な時間内での実施 5) 患者の状況に応じた方法の選択 6) 患者の反応を確認しながら実施 7) 一人でできない援助についてメンバーに協力調整 8) 実施前後の報告			
2. 看護チームの一員としての役割と責任を理解し、互いに協働して業務を実施する。				1. 師長の役割と責任 1) 病棟目標の管理 2) 患者への看護の適切性の評価 3) スタッフの教育・指導 4) 病棟の安全管理・物品管理 5) 他部門との連携・調整 6) 看護部組織の中での報告調整 7) スタッフの配置と勤務スケジュール調整 2. リーダーの役割と責任 1) 業務の分担 2) 医師への報告・連絡調整 3) メンバーへの指導・連絡調整 4) 他部門との連携・調整 5) チームカンファレンスの企画・運営 6) 夜勤者への申し送り 3. メンバーの役割と責任 1) 受け持ち患者への援助 2) チームメンバー間の協力・行動調整 3) 業務担当へ依頼 4) リーダーへの報告・連絡調整 5) チームカンファレンスへの参加 4. 看護専門職としての自覚、自己の課題 1) 組織の一員としての自覚 2) 看護専門職としての自己の課題の明確化			

学習活動	内 容
3. 看護師教育の技術項目を卒業時の到達レベルに到達することができるよう援助を実施する。	1. 自己の看護技術の経験と看護技術の到達レベルの評価 2. 安全・安楽・自立を考慮した援助 3. 患者の状況に応じた援助
4. 申し送りに参加して、継続看護のための体制や連携の実際を理解する。	1. チームにおける伝達の重要性・情報交換の意義 2. 24時間の継続看護 3. 連携の実際 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) チームメンバーとの情報の共有</li> <li>2) リーダーへの申し送り</li> <li>3) 夜勤者への申し送り</li> </ul> 4. 夜間の病棟の管理体制・業務分担
成績評価方法	臨地実習の評価要領・統合実習評価基準に準ずる